

ニチレイグループ CSRLレポート2013 〈ダイジェスト版〉



株式会社ニチレイ

経営企画部
技術戦略企画部(環境チーム)

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2129
URL <http://www.nichirei.co.jp/report/2013/index.html>



当社は年間100万kWhのグリーン電力を契約し、
本CSRLレポートの印刷・製本にかかる
電力(800kWh)相当分をこの一部でまかっています。



この報告書は、国内の山林を保全するために切り出された間伐材を10%以上、古紙を30%以上使用した印刷用紙を使用しています。
インキは[VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロ]のインキを使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。

なまえ

株式会社ニチレイ

編集方針

ニチレイグループはCSR活動を幅広いステークホルダーの皆さまにご理解いただき、コミュニケーションを深めるためにCSRレポートを作成しています。2009年度よりWebサイトにフルレポートを掲載し、冊子はダイジェスト版として発行しています。

本ダイジェスト版はニチレイグループ「6つの責任」を背景にした活動の中で、ステークホルダーの皆さまに特に知っていただきたい事例について掲載しました。

本年度は、社内外のアンケート結果からステークホルダーの皆さまの関心の高かった中国における安全・信頼の取り組み、働きがいの向上に関わる取り組みを特集ページで紹介しました。また、活動をよりご理解いただくため、Webサイトでは働きがいの向上に関わるパフォーマンスデータの開示項目を増やしました。

ニチレイグループCSRレポート2013

URL : <http://www.nichirei.co.jp/report/2013/index.html>
本ダイジェスト版に掲載されていない取り組み事例をWebサイトで紹介しています。

各項目のURL、Webサイトでの掲載場所、Webサイトでの掲載内容は各ページ上部をご参照ください。

●対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日の活動実績を中心に掲載しています。

●対象範囲

ニチレイグループの国内事業所およびグループ会社を対象範囲として記述しています。(上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています)

●発行月

2013年6月

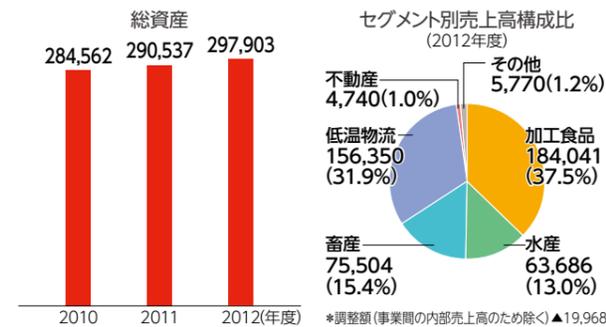
●「CSRレポート2013」に関するお問い合わせ先

株式会社ニチレイ 技術戦略企画部 環境チーム
〒104-8402 東京都中央区築地6-19-20 ニチレイ東銀座ビル
TEL : 03-3248-2232(ダイヤルイン) FAX : 03-3248-2129

会社概要 (資本金および従業員数は2013年3月末日現在)

商号 株式会社ニチレイ
創立 1945(昭和20)年12月1日
資本金 30,307百万円
従業員数 12,680名(連結)
本社所在地 〒104-8402
東京都中央区築地六丁目19番20号
ニチレイ東銀座ビル
電話番号 03-3248-2101(代表)

連結業績の推移



CONTENTS

編集方針/会社概要	2
ニチレイグループの事業概要	3
ニチレイグループの企業経営理念	4
ニチレイグループ「6つの責任」	5
トップメッセージ	6
特集1	8
グローバルサプライチェーンとの協働 ～中国におけるニチレイグループの取り組み	
食の安全・信頼	14
グループの品質保証	
ニチレイフーズの品質保証	
ニチレイフレッシュの品質保証	

特集2	18
ニチレイグループのダイバーシティ・マネジメント ～「人財の多様性」を強みとする経営を目指して	
環境への配慮	24
中期目標と実績	
食品工場におけるCO ₂ 削減	
物流センターにおけるCO ₂ 削減	
企業間連携によるエネルギー使用量 効率化の取り組み	
商品におけるCO ₂ 削減	

社会貢献の推進	30
食育活動	
物流に関する教育	
環境保護活動	
マネジメント	32
コーポレートガバナンスの確立	
コンプライアンスの徹底	
ステークホルダーとのコミュニケーション	34
お客様相談センターの活動	
第三者意見	35

*ニチレイグループの事業概要

株式会社ニチレイ [持株会社]

代表取締役社長：大谷 邦夫 資本金：30,307百万円

ニチレイグループ全体を統括する持株会社として、グループ全体の経営プランニング・モニタリング・資金調達・各事業会社の経営支援の機能を有し、企業価値の最大化を目指した組織運営を推進しています。またグループが保有する土地などの資産を有効活用する不動産事業を運営しています。

株式会社ニチレイフーズ [加工食品事業]

代表取締役社長：池田 泰弘 資本金：15,000百万円

人々の暮らしを見つめ、食を通じ健康で豊かな社会の実現に貢献することを目指し、「おいしさ」「健康」「楽しさ」「安全・安心」「簡単・便利」「安定供給」「適正価格」を7つの基本価値としています。冷凍食品、レトルト食品、ウェルネス食品を通じて常に独自能力を磨き卓越した価値を創造することで、世界で最も信頼される食品企業を目指します。



株式会社ニチレイフレッシュ [水産・畜産事業]

代表取締役社長：早間 元晴 資本金：8,000百万円



グローバルな調達機能を活かし、「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに、水産品・畜産品の「こだわり素材」の開発を進めています。あわせて「持続可能性」を念頭に、資源や環境にも配慮。より高い「生活者価値の創出」を通じて、お客様の期待にお応えできるよう、新たな事業分野への挑戦や社会との調和にも積極的に取り組んでいます。

株式会社ニチレイロジグループ本社 [低温物流事業] 代表取締役社長：松田 浩 資本金：20,000百万円

輸配送を軸とした物流ネットワーク会社と、冷蔵倉庫事業を担う地域保管会社、低温物流施設の企画から運営管理まで支援するエンジニアリング会社で構成される、国内最大規模の低温物流企業グループです。高度な物流情報システムインフラで結ばれた輸送、保管、流通加工、配送から、物流センターの設計・施工・メンテナンスまで、サプライチェーン全体にわたる高品質なサービスを提供。荷主企業様の物流最適化に貢献し、日本の「食」を支え続けています。



株式会社ニチレイバイオサイエンス [バイオサイエンス事業] 代表取締役社長：中村 隆 資本金：450百万円



セルバイオロジー(細胞生物学、免疫学)の知識や経験と、ニチレイグループの素材調達力を活かして、病理検査や感染症で使用される診断薬、機能性をもった食品・化粧品原料の開発・製造・販売と、細胞培養関連製品の販売を行っています。お客様が期待する高品質の製品・サービスを提供することで、医療・美容・健康・バイオ産業の発展に貢献する技術志向型企業を目指しています。



ニチレイグループの企業経営理念

ミッションステートメント

○ミッション

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する

ニチレイグループは、人々のくらしに本当に役立つ商品やサービスを一所懸命に創り出し、健康でこころの豊かな生活の実現に貢献します。

○ビジョン

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

○発想と行動の原点

ひたすらお客様のために！

○経営姿勢

1. お客様第一、安全第一、品質第一を貫く
2. 健全な利益を追求する
3. 付加価値を適正に配分する
4. 法と社会の秩序を守る
5. 公正な競争に徹する
6. 透明性の高い経営を推進する
7. 資源と環境を大切にす
8. 世界を見据える

○ステークホルダーのために

お客様に

ニチレイグループは、究極のお客様である生活者の方々に、真に役立つ商品とサービスを開発し、提供し続けます。そして、お客様と当企業グループが、共に繁栄できることを願って、持続的な相互信頼関係を築きます。

株主・投資家に

ニチレイグループは、より収益性の高い事業を選定・遂行して資本効率を高め、企業価値の向上を実現します。また、株主・投資家の方々に適正な還元を行います。

ビジネスパートナーに

ニチレイグループは、ビジネスパートナーの方々に、イコールパートナーとして公正な姿勢で臨み、信頼関係を築き、共存共栄を目指して相互発展に努めます。

従業員に

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。そのために、能力開発と能力発揮の機会の提供、能力と努力と成果に見合った処遇制度の実施、安全で風通し良く活性化された職場環境づくりを行います。また、性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関するあらゆる差別をなくし、処遇の機会均等を実現します。

社会に

ニチレイグループは、地域社会に企業市民として参加し、事業活動を通じて社会の発展に貢献するとともに、ハンディキャップをもつ人々への支援や文化活動などへの参加と支援を継続的にを行います。

コミュニケーションメッセージ

おいしい瞬間を届けたい

ブランドステートメント

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

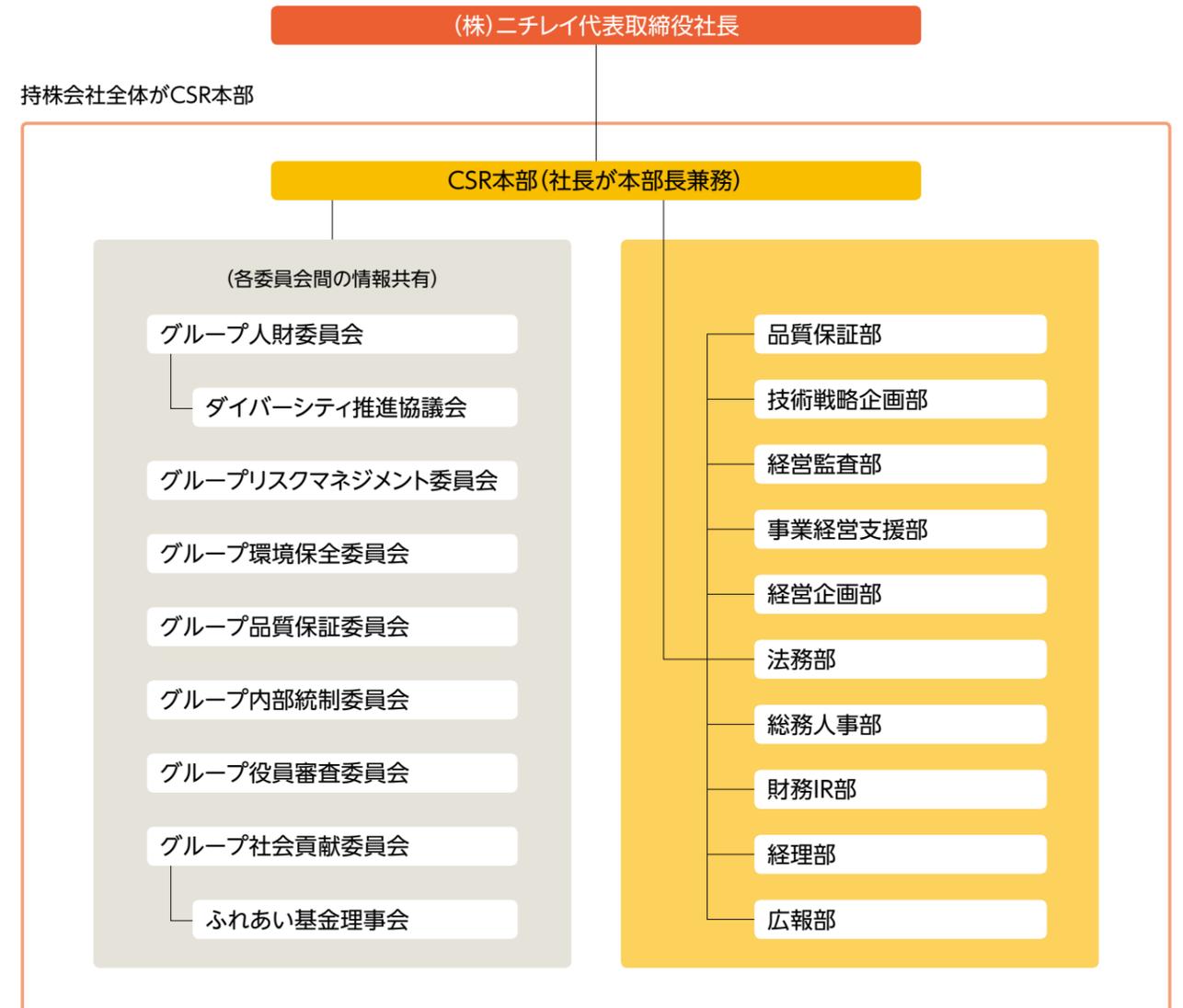
ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

ニチレイグループ「6つの責任」

ニチレイグループは、ステークホルダーの皆さまからの期待に応えるため、経済的・環境的・社会的側面に配慮しながら事業活動に取り組み、その活動を広く公表し、理解と対話を深めてまいります。



*CSR推進体制



事業活動のステージが多様化しても 原点は「6つの責任」です

「6つの責任」を基盤として 事業を通じた社会貢献を実践する

ニチレイグループは、食に関わるさまざまな事業を展開しています。事業内容はそれぞれ異なりますが、すべてに共通しているのは、「暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する。」という経営理念の実現を目指しているということです。私たちが考えるCSRとは、まさに目指すべき理念の実現に向けて事業活動を行っていくことに他なりません。経営トップがCSR本部長を務めているのも、自らの事業を通じて社会に貢献するという考えにもとづいています。

そのための基本方針として、ニチレイグループでは、「新たな顧客価値の創造」「働きがいの向上」「コンプライアンスの徹底」「コーポレートガバナンスの確立」「環境への配慮」「ニチレイらしい社会貢献の推進」という「6つの責任」を掲げています。

グローバル経済のもとでは、社会が抱える課題もさらに多様化・複雑化してきています。激しい変化の時代にあっても、常に「6つの責任」という原点に立ち返り、社会の成長とともに

に、私たちのCSR活動もさらに進化させていかなくてはなりません。例えば事業活動におけるエネルギー消費の削減にしても、グループ内の活動だけではなく、LCA(ライフサイクルアセスメント)の手法を取り入れるなどして、社会全体の環境負荷削減に向けて取り組んでいくことも必要でしょう。

ニチレイグループは、これからも時代の変化を見極め、社会の要請に真摯に対応しながら、着実に「6つの責任」を果たしてまいります。

安全・信頼の構築は 日々のたゆまぬ努力から始まる

人の生命と健康を支える食を担う企業として、食の安定供給は大前提の責務です。その上で、食の安全を確実に守り抜くことが大切な使命だと考えています。

特に近年では、2011年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故、中国における鳥インフルエンザの発生などを受けて、生活者の懸念が高まっています。

ニチレイグループでは、事業内容に応じた品質保証活動を徹底しています。調達・生産・輸送など各段階における安全性の検査を実施し、原材料に遡ってトレースできる仕組みを確立。そのうえ、こうした品質に関する正確な情報を、積極的に公開しています。

さらに、原子力発電所の事故後、食品中の放射性物質の自主検査体制をいち早く立ち上げたり、生活者の安全意識の高まりを反映して監

(左)代表取締役会長

村井利彰

(右)代表取締役社長

大谷邦夫

査機能を強化するなど、社会が求める品質水準を満たすべく、継続的な改善を図っています。

体制強化や技術向上はもちろん重要ですが、食の安全の実現は、まさに日常の事業活動の中で、厳格な安全管理、品質保証の取り組みを、グループ全体が確実にもれなく実践していくところから始まります。日々の地道な積み重ねが、「安全・安心」を超えて、ニチレイグループへの「信頼」の醸成へとつながっていくものと信じています。

グループの強みを活かしながら 各国・各地域に根差した経営を実践する

ビジネスのグローバル化が加速する中、ニチレイグループの事業も世界各地に広がっています。日本市場向けの調達・生産の拠点としてだけでなく、海外市場にフォーカスした事業が拡大しています。2013年度からスタートした中期経営計画「RISING 2015」では、成長戦略の一環として海外展開に力を入れる方針を打ち出しています。

海外進出先は、アメリカや中国をはじめ、タイやベトナムといった経済成長が期待される東南アジア、ヨーロッパ各国と多岐にわたり、提供する商品・サービスも素材・加工食品・物流サービスなどさまざまです。

それぞれの国に多様な社会があり、そこに暮らす人々がいる。どこに進出しても、人々の生活に役立つ商品やサービスの提供を通じて、「健康でこころの豊かな生活の実現に貢献する」というニチレイグループの基本姿勢は変わりません。

そもそも食というのは、地域の歴史、気候、生活スタイルなどに根差した文化のひとつです。工場で大量生産して、世界で一律に販売できるようなものではありません。事業活動を行う上で必要な環境対策の優先順位や安全管理の基準、

食に対する意識も、国や地域によって異なります。

ニチレイグループには、世界一厳しいと言われる日本市場で買ってきた品質へのこだわりや、信頼できる技術・ノウハウの蓄積、食のエキスパートとしての総合力があります。地域に根差した経営の中でこうしたグループの力を活用することによって、現地の生活者の方々の信頼を集め、豊かな社会づくりに貢献していきます。

多様な価値観を認め合い 一人ひとりの個性を発揮する

グローバル化の進展に伴い、今後さらに重要になるのが人財だと考えています。

ひとつは、言葉も文化も異なる海外のマネジメント層をいかに確保し、ニチレイグループの価値観を共有させていくのか。もうひとつは、特に国内で働く従業員にとって、多様な価値観に接する中で、いかにお互いを尊重し、受け入れることができるかということです。

これはグローバルに関わることだけではありません。ニチレイグループでは、ダイバーシティの推進に力を入れており、女性活用や障がい者雇用の推進をはじめ、育児・介護支援など多様な働き方の実現をサポートしています。

ライフステージや個別の事情に配慮した魅力ある職場づくりは、優秀な人財を惹きつけ、従業員の働きがいを高めていきます。一律の枠組みに縛られない多様性の尊重が、イノベーションの源泉になるのです。

それぞれ異なる個性と能力を持つ一人ひとりが、高い志を持って自ら成長を続けていくことで、新たな価値を創造し、社会に信頼される企業を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

中期経営計画「RISING 2015」(2013年度～2015年度)

- 1 グループ各社の国内外における収益力を向上し、持続的成長を実現します。
- 2 グローバルな品質保証体制を構築します。
- 3 グループ経営資源の適正配分を行うとともに、自己株式取得・増配等適正な株主還元策を継続します。
※配当方針については従来どおり連結株主資本配当率(DOE)2.5%を目標とします。
- 4 持株会社体制におけるコーポレート機能を強化します。
- 5 社会・経済環境の大きな変化に対応して技術戦略の強化を図ります。

特集

①

グローバル サプライチェーン との協働

～中国におけるニチレイグループの取り組み

近年、さまざまな国や地域の食材を調達し、世界中で販売することが一般的となっています。急激なグローバル化が進む中で、安全面に問題のない食品の提供、多様化するニーズにあわせた商品の提供など、顧客価値の向上を実現する商品・サービスを継続してお届けしていくためには、グローバルなモノの流れに関わる現地のパートナーとの協働が重要となっています。ニチレイグループは、ミッション・ビジョンを共感いただけるパートナーや地域社会との連携・協働を図りながら、サプライチェーン全体を通じて、より高い価値の創造を目指していきます。

ニチレイフレッシュ えんこう うなぎ蒲焼サプライヤー遠宏集団との取り組み

ニチレイフレッシュが、中国の遠宏集団と共に開発した「うなぎ蒲焼『白垂の殿堂®』」。良質な水に恵まれた自社養殖場で、高品質の配合飼料を使用して稚魚から育てたうなぎを、自社工場加工しています。稚魚養殖から加工までの一貫管理体制を確立し、「安全・安心」と「おいしさ」を徹底的に追求しています。



詳しくは P.12 へ

ニチレイフーズ

中国産冷凍野菜における取り組み

安全・安心な食品をお届けするため、ニチレイフーズでは、一貫した品質管理体制を構築しています。自社基準を設けて、栽培環境や農薬の使用を適正に管理するほか、各段階で検査を実施。製品ごとのトレースバックシステムを確立し、信頼を確保しています。



詳しくは P.11 へ

きんちく えんたい 錦築(煙台)食品研究開発 有限公司の検査体制

ニチレイグループは、専門の検査機関を中国に設置し、中国産の原材料や加工品について、ニチレイ基準に沿った検査を実施した上で輸入しています。同機関は、国際規格にもとづく試験所認定を取得し、高い検査品質を維持しています。



詳しくは P.10 へ

ニチレイロジグループ 低温物流事業の拡大

ニチレイロジグループは、2004年から上海を拠点に物流事業を展開しています。現在は、冷凍・冷蔵・常温の三温度帯をカバーし、上海など華東地域をはじめ、主要各都市への幹線輸送を実現。高精度の温度管理、物流品質管理に、高い評価を獲得しています。



詳しくは P.13 へ

中国・錦築(煙台)食品研究開発有限公司の検査体制

● 検査ネットワークの構築

ニチレイグループでは、中国で生産された水産・畜産品やその加工品、冷凍野菜および調理加工品を輸入しています。お客様に中国産製品を安全にかつ安定的に供給するためには、日本へ輸出する前に中国国内でニチレイ基準に沿った検査を実施し、安全性を確認後に輸入することが効率的です。そこで2005年に(株)日清製粉グループ本社と合併で、中国山東省に錦築(煙台)食品研究開発有限公司を設立しました。これにより、各事業会社は、自社製品に使用する中国産原材料および中間製品等について、事前に現地でニチレイ基準にもとづいた残留農薬、動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤等)および食品添加物などの検査を行い安全性を確認できるようになりました。一方、ニチレイ食品安全センターも、監査検査の一部グローバル化を進めています。これまでは残留農薬、動物用医薬品等化学物質の検査を対象とし、錦築(煙台)食品研究開発有限



会社にこれらの検査を委託していましたが、2012年度より、対象を微生物検査まで拡大し、SGS青島*でニチレイ基準にもとづいた微生物検査ができる体制を構築しました。このように、食品安全の検査の面でもニチレイ基準に沿ってグローバル化が実現されています。

※ SGS青島：通标标准技术服务有限公司青島分公司
SGSは1878年設立、本社はジュネーブ。世界に1,250ヶ所以上の事業所と実験室を備える世界最大級の認証、検査、分析機関

● 錦築(煙台)食品研究開発有限公司における検査の実際

日本人スタッフは2名(それぞれの親会社から派遣)のほか、分析業務の主要な実務は中国人スタッフ(15名)で運用されています。国際的な試験所認定規格であるISO/IEC17025に準拠したCNAS*を取得しており、設備も最新の機器を導入し分析精度の維持向上に努めています。

※ CNAS：China National Accreditation Service for Conformity Assessment Laboratory Accreditation Certificate
中国合格評定国家認可委員会実験室認可証書の略称



検査の様子



錦築(煙台)食品研究開発有限公司
分析チーム 研究員
賈辰

検査には迅速かつ正確な結果が求められているので、責任をもって業務に取り組んでいます。ニチレイとの技術交流を通じて、より幅の広い検査項目にも対応していきたいと思っております。

VOICE

ニチレイフーズ

中国産冷凍野菜における取り組み

旬の時期に収穫・加工・凍結し、おいしさや栄養価が高い状態で長期保存できる冷凍野菜。安全・安心でおいしい冷凍野菜を安定供給するために、ニチレイフーズは現地生産者とともに品質向上の取り組みを行っています。

冷凍野菜の安全・信頼のポイント

①栽培時の農業管理

ニチレイフーズが中国で調達する冷凍野菜原料は、畑の環境(土壌、水質など)、農業の管理状況等自社基準をクリアした農場で栽培され、それらの農場は定期的に農場指導員が巡回し、栽培状況を調査し適正に管理されていることを確認しています。

②生産時の品質管理

ニチレイフーズの品質管理のノウハウを導入した契約工場で、適正に管理された原材料を入荷・選別・洗浄・加工・凍結・検品と徹底した品質管理のもと製品化しています。

③検査

残留農薬については、最終包装される前に現地の検査機関での残留農薬検査において問題がないことを確認、出荷時にはニチレイの指導を受けた生産工場の検査部門で衛生検査を実施。さらに、日本国内において販売される前に計画的にニチレイ食品安全センターで残留農薬、衛生状態などを検査実施し安全を確保するとともに、現地での仕組みが適正に機能しているかを確認しています。

④安全・信頼を支えるトレースバックシステム

現地での栽培管理、生産管理の情報は、製品ごとに印字されたコードで一元管理されています。残留農薬、衛生面などで調査が必要となった場合、このコードをトレースし、畑での栽培管理状況から工場での生産状況までを確認できる体制となっています。コードはあくまで栽培・生産などの履歴をトレースするためのものであり、コードを有効に機能させるためには、コードに対応したしっかりした栽培・生産管理体制が不可欠です。ニチレイフーズでは生産現場とともに試行錯誤を繰り返して継続的な改善を行っており、その製品の栽培管理状況、生産管理記録までトレースが可能となっており、今も進化を続けています。



● 泰安佳裕の新たな取り組み ～安全・信頼をベースに「おいしさ」を目指す～

ニチレイフーズでは、安全・信頼は本来食品にとって前提条件であり、安定供給とともに生活者の求めるおいしさ、便利を冷凍野菜で実現することを目指し、2011年5月に新たに中国山東省泰安市に、合併会社「泰安佳裕食品有限公司」を設立しました。泰安市は広い耕地面積を有し、大規模農場が存在しており有機野菜の生産基地でもあります。また、中国五大山の一つである泰山がそびえ立ち、良質で豊富な地下水にも恵まれています。

さらに今後はこの野菜の栽培に適した地で、気候に合った野菜の品種選定・改良に自ら積極的に取り組み、野菜本

来のおいしさを追求した新たな事業モデルをつくり、冷凍野菜のさらなる高みを目指していきたいと考えています。



● シラスから蒲焼まで一社で一貫した生産体制が持続可能な安定供給を実現

中国産うなぎ業界は、薬剤の残留や業者による産地偽装事件などが頻発し、過去数年にわたり日本のお客様からの信頼を著しく失う苦しい時代を経験しました。そのような環境において、多くの競合他社が事業から撤退してゆく中、ニチレイフレッシュは「安全・安心」で「おいしい」うなぎ蒲焼を諦めずに追い求めてきました。

ニチレイフレッシュが中国の遠宏集団と共に開発した「うなぎ蒲焼『白亜の殿堂®』」は、稚魚養殖から最終製品までの一貫管理体制で生産される、ほかに例を見ないオン



台山市の山麓伏流水

リーワン商品です。稚魚の捕獲水域に近い江蘇省の自社養殖場で稚魚から黒仔(鉛筆大)まで育てたのち、温暖で良質な水と土壤に恵まれた広東省台山市の広大な自社養殖場で、成魚になるまで育て上げます。また、この間に使用する配合飼料も自社で生産しています。高品位なホワイトミール(白身魚を主原料とした飼料)でおいしいうなぎを育



遠宏集団の飼料工場

てています。

このように、稚魚から成魚までを一貫した管理体制下で育てることにより、「安全・安心」で「おいしい」うなぎを安定した品質で確保することが可能になりました。

「うなぎ蒲焼『白亜の殿堂®』」は、これら自らの管理体制で育てたうなぎのみを原料として使用し、自社の加工場にて冷凍蒲焼製品にまで加工した商品です。

遠宏集団の稚魚養殖から最終製品までの一貫管理体制は、「安全・安心」で「おいしい」うなぎ蒲焼の供給を実現しています。



蒲焼きの様子



こだわりの配合飼料

(左) 遠宏集団 董事長
徐 遠宏様(右) (株)ニチレイフレッシュ
水産事業本部 水産品グループ
部長代理
大槻 修平

ニチレイフレッシュとは、お互いを尊重し、自らを厳

しく律しながら、長年にわたる取引引きを通して固い信頼関係を築くことができ、とても良い関係だと思えます。

誠心誠意が当社の経営姿勢です。消費者の皆さまに安全・安心な商品を生産し、お届けすることが遠宏グループの使命であり、社会的な責任でもあると認識しています。

ニチレイフレッシュのこだわりと、私たちのこだわりを重ね合わせた、「白亜の殿堂®」を是非お役立て頂きたいと思えます。

VOICE

● 冷凍・冷蔵・常温の三温度帯を備える設備でさらなる物流品質向上を目指す

ニチレイロジグループの中国事業は2004年に(株)三菱商事、中国の上海市浦東汽車運輸総公司(現在は上海交運日紅国際物流有限公司)との合併で上海市に上海鮮冷儲運有限公司を設立したことからスタートし、日系のコンビニエンスストア、外食、メーカー企業等を中心に冷蔵倉庫事業と輸配送事業を行っています。

冷蔵倉庫事業では、2012年4月に第2センターを稼働させ、1,300トンの保管能力を、新たに常温を含む5,200トンへ大幅に増強しました。主要顧客であるコンビニエンスストアおよび外食産業の店舗数増加へ対応すると同時に、上海進出が加速している日系顧客を中心とした旺盛な保管ニーズにもお応えするものです。これにより、冷凍・冷蔵・常温の3温度帯対応を実現し、多温度帯の発注を1回にまとめるワンストップサービスのご提供が可能となるなど、お客様からの多様なニーズにきめ細やかにお応えしています。

また輸配送事業では自社車輛を30台保有し、配送提携企業と共に、上海市内を中心とする華東地域への配送、北京、成都、広州、青島など中国国内の主要都市への幹

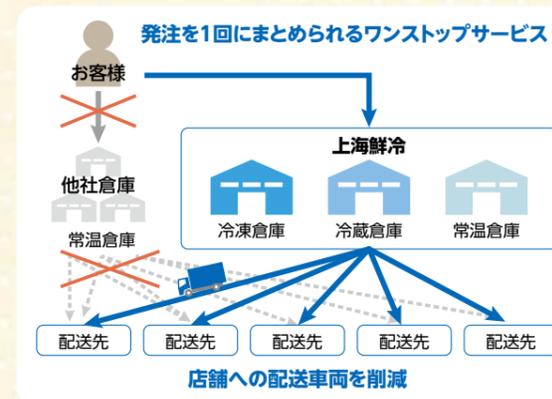
線輸送を展開しています。

安全面では地元警察を招いて定期的に講習会を実施するなどドライバーの安全教育にも力を入れています。

お客様からは高品質な物流を評価いただき、日系企業に加え、外資系企業や品質を重視する中国系企業からの引き合いが続いています。

中国では今後も低温物流のニーズがさらに増加する見込みであり、上海鮮冷儲運有限公司は温度管理や物流品質管理のさらなる向上に努めていきます。

■ ① 華東地区配送網



第2センター外観

上海鮮冷儲運有限公司
董事長 總經理
柳澤 隆之

上海鮮冷ではニチレイロジグループの『選ばれつづける仕事』をブランドスローガンとし、日ごろから物流品質向上に取り組み、お客様の満足度向上を目指しています。

品質向上の取り組みとして、配送や納品状況の巡回チェックを定期的実施し、その結果を乗務員教育に役立てています。また、温度記録計を全車輛に搭載し温度管理を強化する取り組みもスタートしています。

今後お客様に提供する物流品質をよりよいものにしていくよう努力していきます。

VOICE

食の安全・信頼

http://www.nichirei.co.jp/report/2013/food/food_01.html ホーム > CSRレポート2013 > 食の安全・信頼

品質保証に関する基本方針

1. 食品衛生法、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律等の食品関連法令、その他事業関連法令により要求される事項を遵守すること。
2. グループ品質管理規程で定める品質保証に関する要求事項を、グループ全体で遵守するとともに、製造委託先に対しても遵守させること。
3. 食品の安全・安心に対する生活者・取引先の要求事項を確実に把握し、グループ全体の品質保証力を継続的に高めること。

グループの品質保証

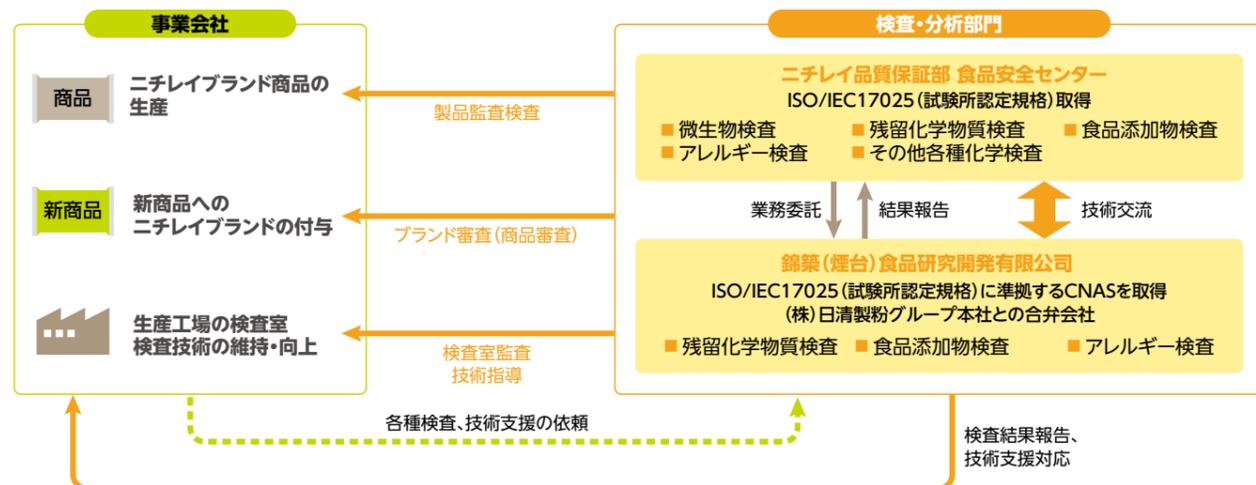
* 食品安全センターの取り組み

ニチレイグループでは、グループ品質基本方針および品質管理規程に沿って、各事業会社の事業内容に応じた品質保証活動を行っています。ニチレイ品質保証部食品安全センターでは、グループの検査・分析部門として、こうした各事業会社の品質保証活動が適正に機能しているかを検証するために、「製品監査検査」「ブランド審査」「生産工場の検査室監査」(*)を実施しています。品質保証体制の仕組みの一つとして、食品安全センターが実施するこれらの検査は重要な位置づけにあり、この仕組みの厳格な運用が品質保証力の維

持・向上に活かされています。さらに、事業会社が扱う中国産製品の安全性確保のため、中国山東省にある錦築(煙台)食品研究開発有限公司と連携し、原材料や最終製品の検査を実施しています。食品安全センターでは、国際的な試験所認定規格であるISO/IEC17025を取得し、また錦築でもISO/IEC17025に準拠したCNAS*を取得しており、データの信頼性が確保されています。

*CNAS: China National Accreditation Service for Conformity Assessment Laboratory Accreditation Certificate
中国合格評定国家認可委員会実験室認可証書の略称

検査体制フロー



※製品監査検査: 年間計画に従って各事業会社が取り扱う製品に対して、グループの規格基準に適合しているかチェックするために、微生物、農薬や動物用医薬品の残留、食品添加物などの検査を実施しています。

※ブランド審査: 各事業会社が販売しようとする商品は、ニチレイ品質保証部がブランドポリシーの観点から工場審査と商品審査を行い、その審査に合格した商品だけが販売できる仕組みになっています。食品安全センターではアレルギー検査などの商品審査を担当しています。

※生産工場の検査室監査: 生産工場の検査室では、最終チェックとして、生産された製品がグループの衛生基準に適合しているか検査を実施します。食品安全センターでは生産工場の検査室に対して、検査技量の確認をしています。さらに、各種の研修会や、個別の指導も実施しグループ全体の検査レベルの維持・向上に努めています。

Web

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

- ▶2012年度の活動と今後の取り組み
- ▶グループの品質保証: 外部機関を活用した技能試験
- ▶ニチレイフーズの品質保証: 品質保証組織体制の強化、お客様への情報提供、CSR調達の取り組み
- ▶ニチレイフレッシュの品質保証: 生産工場の品質マネジメントシステム

* 安全性確保のための検査体制

食品安全センターでは、冷凍野菜では残留農薬を、水産・畜産品とその加工品については、抗生物質、合成抗菌剤などの動物用医薬品を重点に検査を実施しています。分析結果は食品衛生法に適合しているか判断するのみではなく、たとえ基準値内であっても検出があったときは、事業会社にフィードバックすることで、現地での農薬管理、投薬管理が適切であったかなどを調査し、原因究明、基準超過の未然防止を図っています。

現在、農薬・動物用医薬品は400を超える項目数を検査していますが、微量の成分を測定するには高い分析技術が必要です。中国産製品についても、錦築(煙台)食品研究開発有限公司によって食品安全センターと同等レベルの検査を実施しています。農薬・動物用医薬品の検査については、食品安全センターと同社が連携することで、効果的な検査体制が構築されています。

また、2011年は東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能の食品汚染不安が広がりました。食品安全センターにおいても、ニチレイグループが扱う製品およびその原材料を対象にNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータによるモニタリングを実施しています。



NaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータによる検査の様子

* 生産工場の品質衛生管理向上のためのツール

生産工場では、日々製品や工場内環境を検査し、衛生管理に活かしています。このPDCAサイクルを回していくには、正確な検査を行い、データをまとめ、正しい知識をもとに判断していくことが大切です。

食品安全センターでは、これらのことについての教育や評価を行っています。専門的な内容が多いため、工場を直接訪問したり、研修会を開催したり、現場で直接対話することで、より実践的に理解を深めていただくよう努めています。

また、国内、および海外の生産工場に対する教育ツールの開発を行っています。例えば、今年度は検査手技に関するDVD(日本語・英語・中国語)を作成し、関係工場へ配布しました。

今後もさまざまな教育ツールを作成し、食品の製造・販売・流通に関わるすべての人が科学的な思考を積み重ねていく仕組みづくりを目指します。このことが生産性の向上や、品質保証力の維持・向上に繋がると考えています。



検査手技に関するDVD



国内生産工場の衛生管理に関する研修会の様子

VOICE

(株)ニチレイ 品質保証部 食品安全センター
マネジャー
遠藤 英子

工場を対象とした衛生管理に関する研修会を企画・運営しています。座学と実践から学ぶことで、専門的な知識が身につくように工夫しています。ニチレイの目指す品質について共通認識を育てていきたいと思ひます。

ニチレイフーズの品質保証

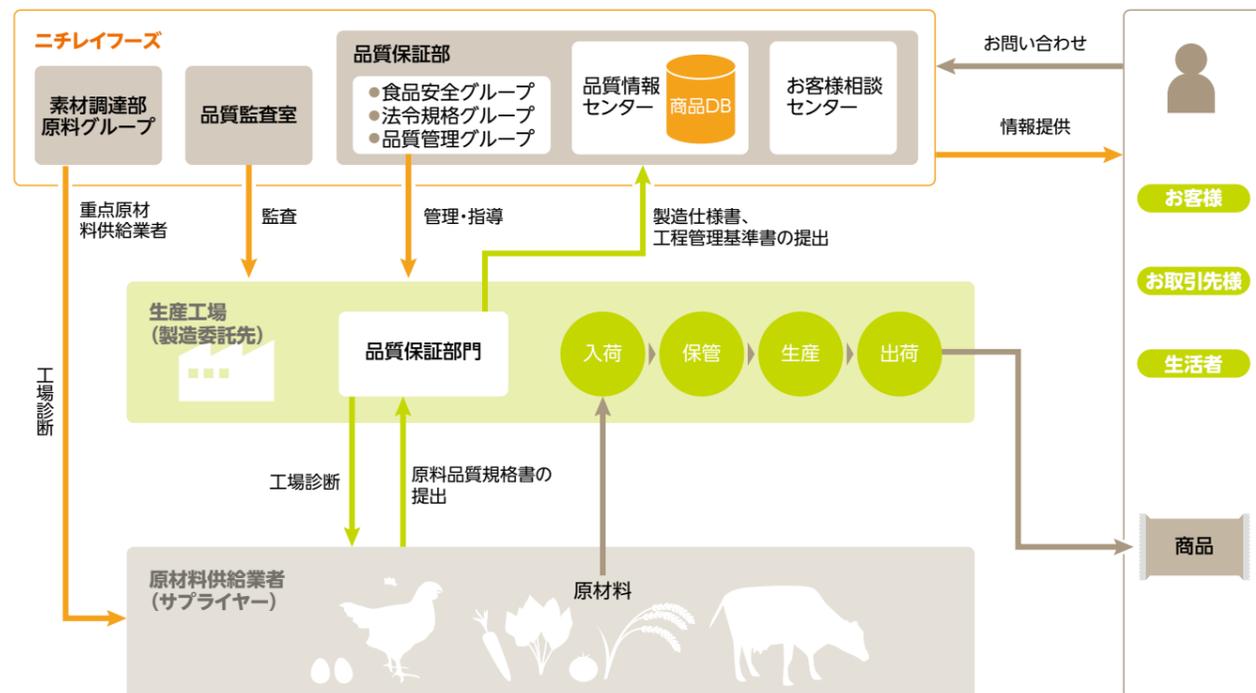
* 調達段階での原材料管理 (サプライチェーンマネジメント)

ニチレイフーズ素材調達部原料グループの統括のもと、製品の生産工場が「原料メーカー工場診断シート」に沿って原料供給業者の工場を診断し、この診断に合格した原料供給業者とのみ取引引きを行っています。

取引引き開始後も工場診断評価点に応じた指導を行い、改善を継続的に進めています。また、素材調達部と生産工場の品質保証部門が共同で重点業者を選定し、工場診断を実施することで、より高い精度で原材料管理を行います。

原材料は3次原材料まで遡って調査し、配合割合、衛生規格・製造工程などを管理します。原料供給業者はそれらの内容を記載したニチレイフーズ指定の「原料品質規格書」を発行します。その後、データベースに保存され、表示の作成やお問い合わせ対応などに活用されます。新規原材料の購入に当たっては、工場診断とこの規格書を確認し、サンプルをチェックしたうえで選定しています。

■ ニチレイフーズの品質保証体制



* 生産段階での品質管理の徹底

食品衛生・安全の各種関係法令およびニチレイフーズの専門ノウハウを反映した品質管理規程にもとづき、生産時の品質を管理しています。さらにISO9001とHACCPをベースにした管理手法を取り入れ、生産品目ごとに工程管理基準書を中心とした製造仕様書を作成しています。製造工程における具体的な管理項目・条件を定め、それにもとづき生産を行っています。また、国内直営工場を中心に展開してきた、主にトレーサビリティ用に自社開発したPAS(Product Assistance System)を一部の海外投資工場にも展開しました。トレースの仕組みが電子化され検索のスピードアップが図れるとともに、製造現場での配合ミス等も防げるようになり、作業管理の精度が向上しました。

これらの仕組みは、毎月生産工場で行われる品質保証委員会でレビューされます。さらに品質監査室による生産工場定期監査、およびISO認証機関の監査を受けています。

ニチレイフレッシュの品質保証

* こだわり素材の品質管理

ニチレイフレッシュでは「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに、自然の力を最大限に活用して育てた、生活者にも環境にもやさしい価値ある商品＝「こだわり素材」をお届けすることで、生活者の皆さまに心の満足を提供しています。なかでも安全・安心への配慮を、こだわり素材の最重要課題と位置づけて、さまざまな取り組みを行っています。

こだわり素材の品質をより確かなものとするため、水産品では漁場・漁獲方法や養殖方法、畜産品では品種や繁殖・肥育の方法、飼料の内容、栄養成分や肉質、加工・処理方法など、素材ごとに必要項目を定義しています。

さらにその定義に沿って、各工程の管理基準を明確にし、チェックの項目、方法、頻度を規定。例えば、稚えび導入の基準や、養殖・飼育期間中の投薬プログラム、えびや家畜へのストレスを配慮した面積当たりの養殖尾数や飼育羽数の設定、飼料生産の各工程での管理基準、漁獲から処理までの時間や温度管理基準を定めています。

また、生育期間中に抗生物質などを使用しない鶏肉「FA*チキン」や、養殖期間中に抗生物質などを使用しないえび「FAシュリンプ」についても、各工程に管理基準を定め、定期的にシステム監査を実施。「FAチキン」の場合は飼育農場、処理・加工場、飼料工場、「FAシュリンプ」では養殖場、処理・加工場、飼料工場を定期的に訪問し、管理基準に合致していることを確認しています。

また、より明確な履歴管理が求められるこだわり素材については、養殖、繁殖・肥育段階の一貫管理体制を整え、飼育記録や薬剤管理記録にもとづき、給餌や投薬などの履歴がトレースできるようロット管理を行い、不適格品が確実に排除できる仕組みを構築しています。

*FA: Free from Antibiotics



FAチキン

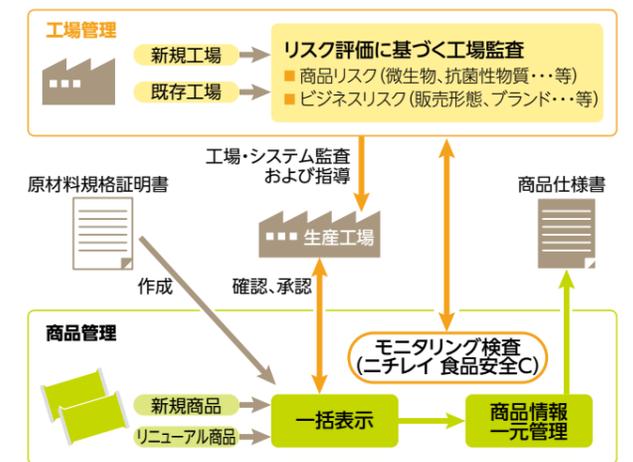
* 品質保証体制

ニチレイフレッシュでは、仕入先管理と商品管理を柱に、品質保証体制を構築しています。そのベースとなるのが、リスクマネジメントの視点から商品リスク、ビジネスリスクの大小を合理的・客観的に評価する「リスク評価」です。

新規工場と取引引きを開始する場合は、リスク評価にもとづき、事前監査を実施。既存の工場にはリスク評価にもとづいて定期監査を実施し、必要に応じて指導も行います。さらに、こだわり素材を取り扱う工場や仕入先については、生産工程全般にわたるシステム監査を実施しています。

また、お客様への正確な情報提供のため、商品情報一元管理のもと、一括表示や商品仕様書の作成を行っています。さらにリスク評価にもとづき、定期的に微生物・抗生物質などのモニタリング検査を実施しています。

■ ニチレイフレッシュの品質保証体制



* 輸入品の検査体制

中国の鶏肉加工場・うなぎ加工場、ベトナムのえび加工場は、抗生物質、合成抗菌剤の自主検査体制を構築しています。中国産うなぎおよびベトナム産えびについては、加工場での自主検査に加えて、第三者機関による抗生物質、合成抗菌剤の輸出前検査を実施しています。

ニチレイグループのダイバーシティ・マネジメント ～「人財の多様性」を強みとする経営を目指して

ニチレイグループは、ミッション・ステイトメントの実現に向け、CSR活動の基本方針「6つの責任」(P5)のひとつとして「働きがいの向上」を推進しており、当社グループの考えるダイバーシティの活動は、こうした考え方を踏まえて推進しています。

方針 企業経営理念(ミッション・ステイトメント)：従業員に より

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事から従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員の個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。

- ① 能力開発と能力発揮の機会の提供
- ② 能力と努力と成果に見合った処遇の実施
- ③ 安全で風通し良く活性化された職場環境づくり
- ④ 性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関する差別的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現

働きがい向上基本方針

「社員重視の職場づくり」

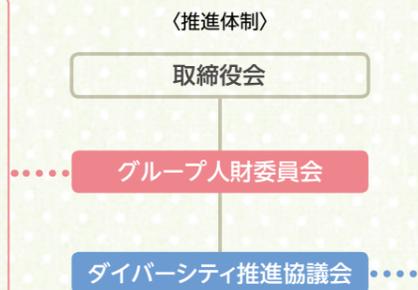
「CS向上とES向上は車の両輪である」との基本理念に基づき、ニチレイグループで働くすべての従業員が自分の職場や仕事に誇りを持ち、上司との信頼関係の下、意欲を持って働き、持てる能力を最大限に発揮できる職場環境を整備する。

「ダイバーシティの推進」

ダイバーシティ(異なる属性(性別、年齢、国籍等)や異なる発想・価値を認め、従来と異なる新しい考え方や価値意識を受け入れるだけの許容力を、企業革新の一つの原動力に変えること)の推進を通じて、労働力(人財)の確保、従業員の働きがい・生きがいの向上、さらには新たな発想や価値の創造の実現を目指す。

位置づけ 「働きがいの向上」を推進する委員会として位置づけ、「社員重視の職場づくり」に向けたES調査を起点とするPDCA(ES調査実施→結果のフィードバック→課題の抽出→改善施策の策定・実施)サイクルのモニタリング会議体とする。

活動内容 各事業会社の社長が人事施策に関して協議しています。従業員満足度調査の結果に基づく「働きがいの向上」に資する改善施策(人事制度や教育訓練計画等)の立案・実施状況やそのときどきの人事施策のトピックス(人事諸制度等の制度改正や春季交渉等)に関して関係者が一堂に会し、情報共有や進捗確認、意見交換等を行っています。



位置づけ グループ人財委員会の下部組織として位置づけ、各課題に対し労使で協議し、その協議内容をグループ人財委員会に報告する。

活動内容 女性の活躍支援など企業としての男女共同参画推進についての取り組み、外国人採用などグローバル戦略の取り組み、ライフステージや年齢に応じた多様な働き方に資する取り組み、障がい者雇用などハンディキャップのある方の雇用や協働についての取り組み、その他従業員一人ひとりの人権や働きがい・働き方に配慮した施策についての取り組みを中心に、各社施策検討とモニタリングを行います。各社施策の情報共有を進め、有用な施策の横展開等を通じて、グループ各社の「働きがいの向上」の推進、啓発を図っています。

ニチレイグループのダイバーシティ 取り組みの歴史

1985年～1999年まで

ダイバーシティにおける取り組みの初期段階

男女雇用機会均等法制定(1985年)により、女性の総合職を採用開始。原則転居を伴う異動がないエリア限定の総合職。

2000年～2004年

ニチレイ型成果主義人事制度(FFプログラム※1)導入期

年功序列的人事制度から、成果主義のおよび社員の自律を促す人事制度へ大きく舵を切る。

- ▶▶▶ ● キャリア自律を促す制度の導入：キャリア申告、人財公募制度、プロチャレンジ制度(役職登用制度)
- キャリア開発を基軸にした制度の導入：目標管理制度、コンピテンシー評価制度、人財育成プログラム

● ポジティブアクション※2の実施

2000年から3年間の時限措置として、女性の役職者比率1.2%から5%を目標とした戦略的な女性の登用を進める。その結果、女性の役職者比率は4.7%となり、ほぼ目標数値を達成。

● ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 法令以上の育児休業期間・短時間勤務対象者の拡大
- 女性社員退職者の組織化と再雇用
- 在宅勤務プロジェクトの発足とトライアルの実施
- 長時間労働の是正に向けた取り組みの開始

2004年以降

低温物流事業会社の分社化(2004年)および持ち株会社体制(2005年)後の施策

● 社員の価値観を尊重する制度の制定

- ロジグループ：地域限定で活躍を希望する社員とグローバルで活躍を希望する社員に対応した区分を制定。
- ニチレイフーズ：結婚・育児・傷病等の個人事由に応じて期間限定で勤務地を申請できる地域限定総合職制度を導入。

● マイノリティーに対する施策

- 女性社員の育成：ニチレイフーズでは社内の次世代育成プログラムに女性社員の参加を促進。子会社の社長に女性を起用するなど、女性活用を推進。
- 外国人の雇用：各事業会社は外国人新卒採用を積極的に実施し、近年、年間数名の定期採用を継続。
- 高齢者の活用：ロジグループ：定年後再雇用者の活用。
ニチレイフーズ：キャリアカウンセリングを実施し、65歳までのキャリア開発に注力。
- 障がい者雇用：知的障がい者の雇用機会の拡大および雇用率の達成を目的として特例子会社のニチレイアウラを設立。

取り組み課題

今後もさらに顧客の求める商品・サービスの多様化や、グローバル対応が必要となります。そのために、今まで以上に従業員一人ひとりの能力に着目し、適材適所の配置を推進、また従業員のキャリア自律を促す仕組みや教育を進めていきます。今後進めていく上での課題として、例えば、女性の単なる活用から成果に結びつく仕組みとして、優秀な女性の幹部層への登用・教育の機会提供・戦略的な人事ローテーション等、障がい者では特例子会社ニチレイアウラの活用を推進しながら、障がい者のポテンシャルを引き出すような配置・登用、外国人については、新卒採用の継続や、現地法人社員とのローテーション等人事制度の整備等と認識しています。

※1 **FFプログラム**：フレッシュ&フェアプログラム。「成果」「役割」「能力開発」を重視したニチレイ型成果主義のこと。社員のキャリア開発を通じ、業績の向上と職務満足度の向上を目指す。

※2 **ポジティブアクション**：固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から、「営業職に女性はほとんどいない」「課長以上の管理職は男性が大半を占めている」等の差が男女労働者の間に生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取り組み。

グローバル人材戦略

ニチレイフーズ

● グローバル展開を見据えた採用

ニチレイフーズは、中期経営計画(2013年度～2015年度)における海外事業戦略にもとづきグローバル人材の採用・育成を進めています。新卒採用に関しては2011年秋にタイ、2012年秋に中国およびインドネシアからの留学生を採用するとともに、留学経験がある人材や海外志向の高い人材の採用を強化しています。また既に海外で活躍した経験・能力を持ち合わせた人材のキャリア採用も進めています。多様な人材が『個』を活かしていくことで、新たなマーケティング視点でのスピーディーな価値の提供につながると考え取り組んでいます。

● グローバル人材の育成

国籍は多様化するものの、ニチレイフーズの求めるグローバル人材像は『国内外で活躍できる人』であり、決して海外だけの要員とは考えていません。この視点にもとづき、ニチレイフーズは、グローバル人材育成プログラムを実施しています。

● グローバル人材育成カレッジ

各部門の若手・中堅社員20名を選出し、シンガポールでの研修を始め、7か月間におよぶ日本語・英語織り交ぜたプログラムを通して、ロジック、ネゴシエーション、およびコミュニケーション能力の向上を図っています。

● 経済産業省インターンシッププログラム*

営業・生産・開発部門より各1名を選出し、インドネシア・ベトナムの企業へ2～3か月間インターンとして派遣しました。マーケティングの重要性を教え合ったり、さまざまな文化・多様性の理解を深め合ったり、現地できかないプログラムを実践しました。

*経済産業省インターンシッププログラム：日本企業のアジア投資を推進させる目的で経済産業省が企画。



(株)ニチレイフーズ 国際事業部
国際事業開発部 マネジャー
仲埜 洋平

VOICE

経 済産業省インターンシッププログラムに参加し、2012年9月から2ヶ月間、インドネシアの外食企業に派遣されました。自分の目で市場を確認し、「誰に」「何を」「いくらで」「どのように」お届けするか、日本と前提条件が異なることを体感しました。また、その環境の中で適応していくことが海外マーケットの獲得につながると実感しました。派遣先において日本人は1人だったので、現地の人々とのコミュニケーションも学びました。現場で得た経験を活かしていきたいと考えています。



(株)ニチレイフーズ 国際事業部
国際事業開発部長
佐藤 健夫



(株)ニチレイフーズ 国際事業部
国際事業管理部長
横山 俊賢

VOICE

海 外市場において、商品設計から販売までの「域内完結型事業モデル」を推進するには、事業の「開拓者」と「育成者」の存在が不可欠です。新しい市場に飛び込んでいく「開拓者」の人材要件には、未知の市場・パートナーに接しても、積極的に自分自身を売り込めること、基本動作の重要性を理解しながらも、確たる根拠があれば、敢えてそのセオリーからはみ出す決断力を有することが挙げられます。どんな環境でも物怖じしない強さ、何ごとにも聞かずにはいられない強烈な好奇心、生涯学習の精神などは「開拓者」に不可欠なドライバーです。ニチレイフーズは「開拓者」の採用・人材育成および配置に戦略的に取り組んでいます。

従業員に対する各種調査と施策

● グループ全体の考え方

ニチレイグループでは、「顧客満足度(CS)と従業員満足度(ES)は車の両輪である」との考えのもと、各事業会社で定期的にES調査を実施し、「働きがいの向上」を目指しています。

ニチレイフーズ

調査の目的は、社員のモチベーションおよび組織風土を定量的・定性的に把握し、課題を見える化し、解決していくことです。このことが継続的な価値創造につながり、ニチレイフーズのミッション・ビジョンの実現に資すると信じています。またマネジメントサイクルにおける重要なモニタリングツールの一つとしています。

2007年度より実施し、2012年度で6回目になりました(1408名回答、回答率83.5%)。

総合的な指標においては調査開始以来、上昇傾向にあり、マクロの視点で見ると従業員の満足度は高い状態であると認識しています。ただしミクロの視点で個別の項目を見ていくと「連帯感」や「連携」といったキーワードの項目において、経年的に満足度が低い状態にあり、重要な経営課題と捉えています。2013年度、ニチレイフーズは機構改正を行い事業部制に移行しました。より一層の「連帯感」や「連携」が図れるよう取り組んでいきます。

ニチレイフレッシュ

2012年の8月から9月にかけて全国6ヶ所(14会場)において、マネジャーと営業職、一般社員を対象に、「社長と語ろう会」を開催しました。第一部は「こだわりについて」と題し、社長が事業への想いや目指す組織の姿について話し、第二部は社長と参加者一人ひとりが自由に話し合う場を設け、少人数による開催で、参加者全員とのコミュニケーションが図られました。

開催に先立ち、従業員意識調査を目的に「目標管理」「組織風土」「営業活動」の3つの視点から事前アンケート調査を実施し、その結果、改めて営業力強化を図ることが喫緊の課題であることがわかりました。その解決策を、「これまで以上にお客様のために使う時間を増やすこと」、「組織を顧客志向に転換させること」、「営業のモチベーション

を維持・向上させること」とし、これら3つの取り組みを強化しお客様との接点を深めることとしました。

「語ろう会」での気づきを社長が「語ろう会総括」としてまとめ、下期の「車座集会」でレビューしました。

ニチレイロジグループ

ニチレイロジグループでは、これまで「働きがいのある職場づくり」の取り組みとして、調査やインタビューの実施等、労働組合の協力も得てさまざまな活動を行ってきました。

「働きがいのある職場づくり」においては、日常のコミュニケーションだけでなく、実態や問題意識を共有し、意見交換する「会議の場」が十分に機能していることも重要です。そこで、2012年度は、全従業員を対象に「会議の場」の実態を把握することを目的とした調査を実施しました。また、調査と並行し良い事例を収集するため、良好な回答が多かった6事業所を対象にインタビューを行いました。

調査結果から、「会議」の場所、時間、人数やメンバーだけでなく、テーマや進行、自由に発言できる雰囲気づくりなど、様々な工夫が「働きがいのある職場づくり」につながっていることがわかりました。今回の調査で得られた良い事例とこれまでの活動をまとめ「職場のコミュニケーションガイドブック」を作成し、全従業員へ2013年度上期中に配布予定です。職場での日常のコミュニケーションのあり方、特に「職場懇談会」や「まるコミ」といった「会議の場」を効果的に運用し、また他事業所の良い事例を共有することで、「働きがいのある職場づくり」につなげていきます。

ニチレイバイオサイエンス

ニチレイバイオサイエンスでは、働きがいを向上させるためには会社と自分自身の意識と行動の改革が必要であるという考えのもと「従業員総合意識調査」を実施しました。調査の各指標は年ごとに上昇してきておりますが、より良い組織風土づくりを目指し、少人数の「車座ミーティング」、全従業員参加の「まるコミ」を通して理念とビジョンの共有を行いました。2013年度は、コミュニケーション力を養うための「人間力研修」を行うとともに「車座ミーティング」「まるコミ」も継続して、さらに自由闊達で活気溢れる職場づくりに取り組んでいきます。

全社運動と報奨制度

ニチレイフーズ

●『ハミダス活動』

●ハミダス活動を始めた背景

ニチレイフーズは、2011年9月に『ミッション・ビジョン、従業員のモットーおよび行動指針』を新たに制定しました。

時代の推移とともに企業も変化していきますが、大切に継承していくもの、変えてはいけないもの、それがニチレイフーズのミッション・ビジョンです。また、従業員のモットーである“ハミダス(明るく、とらわれず)”には、①もっと、思いやりをもって、②もっと、チャレンジして、③もっと、楽しく仕事をしよう!という3つの想いが込められています。ミッション・ビジョンの実現に向け、個性や能力を存分に発揮できる、明るく元気で風通しの良い会社になるようミッション・ビジョンの啓発とともにトップメッセージを従業員に伝えています。



ハミダスWebサイト

●あぐら(経営層と従業員との『対話』)の実施

ニチレイフーズは経営層と従業員との『対話』を目的としたあぐらを、2011年度は55部署、参加者人数1087名、計77回実施しました。

2012年度は新たに海外の事業所(タイ)や階層別(新任役職者や新入社員)のあぐらも実施し、88部署、参加者人数1130名、計94回実施しました。

また、活発な意見交換ができるように、参加人数をより少人数にし、全国各地の工場や営業所を細かく回り、対話の機会を増やしています。



あぐら

社長自らがハミダスに込めた想いや経営に関する案件を直接従業員に話しています。

●あぐらから浮かび上がった課題とハミダス活動の展開

あぐらでは、コミュニケーションや部門間の連携、商品開発、人財教育などに関する声が多く寄せられました。また対

話の中から浮かび上がった業務改革の課題の一つとして物流品質の向上があり、これに対しては“ハミダス物流改善プロジェクト”を発足し、改善活動へとつなげました。このプロジェクトでは、関連部署からメンバーを選出し、お客様視点でお互いの業務プロセスを見直し、最終的には経営層への改善提案を行いました。その結果、「物流サポートセンター」を新たに設立し、より良い物流品質を実現する仕組みを導入することになりました。

また従業員の意識改革の一環として働きがいにつながる活動も行っています。その一つが“ハミダスファン作り”です。従業員に、もっとニチレイフーズを知って、好きになってもらおうと、ニチレイフーズ商品の配布や「東京ディズニーリゾート®」のPRバス「ドリームクルーザー®」の撮影会などを行いました。従業員が「自然に笑顔になる企画」で好評を得ました。

また、ハミダス活動の輪を広げるために、“ハミダスフレンズ”も選出しました。2012年度のあぐらの企画・運営を事務局と協同で進めるとともに、各部署でハミダス活動の推進役を担っています。

これらのハミダス活動は、2012年度19回発信している社長の動画メッセージやハミダスWebサイトを通じて、全従業員へ配信しています。2013年度はハミダス推進グループを新設し、さらに強くハミダス活動を進めていきます。



ハミダス物流改善プロジェクト ハミダスフレンズ

●人事施策との連動

ニチレイフーズは、ミッション・ビジョン実現に向け、多様化する生活者スタイルおよびグローバル化するマーケットに対応していくためには、多様な人財が得意技を発揮する集団へと進化していく必要があると考えています。ダイバーシティの推進をきっかけ、『個』を尊重し活かしたマネジメント、フェアな人事制度の整備等、人事施策と連動し取り組んでいきます。

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

Web

- ▶2012年度の活動と今後の取り組み ▶経営層と従業員の対話:車座、YYミーティング ▶J-Winへの派遣(ダイバーシティ推進と女性社員の人財育成)
- ▶一般事業主行動計画 ▶育児・介護への支援 ▶労働組合「働きがい向上委員会」の活動 ▶安全で快適な職場づくり ▶公正な雇用機会の提供
- ▶地域限定総合職制度 ▶障がい者雇用 ▶人財育成 ▶人財データ集

ニチレイロジグループ

●選ばれつづける仕事賞

ニチレイロジグループでは、食品物流業界において、常にお客様から選ばれつづける事業者でありたいという思いから、『選ばれつづける仕事。』をブランドスローガンとして掲げています。

「選ばれつづける仕事賞」は第一線に立つ従業員の優れたお客様対応や日常業務に関して、同僚やお客様の推薦をもとに表彰するものとして2008年に創設しました。

2012年度は5月、第7回となる表彰式を開催し、海外事業会社を含め、過去最多の23のチーム、個人が受賞しました。

「自動倉庫・マテハン機器*の夜間運用管理を担当し、常に万全の対応で縁の下の力持ちとして365日24時間稼働のセンターを支えている人」、「物流品質の向上に努め、お客様のモデルセンターとして位置づけられるまでにしたチーム」などが表彰されました。この取り組みをニチレイロジグループの重要な経営方針である「働きがいのある職場づくり」「お客様満足度の向上」につなげていきます。

*マテハン機器:物流業務において運搬や荷役作業を助ける機器のこと。



国内受賞者

ニチレイフレッシュ

●A・S・A運動の実施

「A・S・A」とは...

- A あいさつ
- S さんづけ
- A ありがとう

- ・挨拶すること、挨拶を返すこと。
- ・呼び捨てやニックネームや「～君」ではなく、「～さん」で呼ぶこと。
- ・周囲の働きに対して、称え、感謝すること。
- ・これを率先して、地道にやって行くこと。

「A・S・A」は、コミュニケーションの原点です。
一人ひとりが同じ気持ちをもって、
実践していきましょう。

有識者からのご意見



早稲田大学大学院
商学研究科教授
谷口真美

(株)ニチレイ 社外取締役

企業が多様化に取り組む契機には、次の2つがあります。1つは、法規制などの外的要請への受動的対処、もう1つは、市場開拓やイノベーションの創出などビジネス成果向上をねらう積極的対処です。とくに後者は、経営合理の観点にもとづく戦略的取り組みです。ニチレイグループの多様化の取り組みも、当初は前者を契機とし、現在は後者に移行しつつあるようです。

ニチレイグループは、これまでポジティブアクション、ワーク・ライフ・バランス施策、外国人の雇用等によって従業員の多様化を進めています。しかしながら、「人財の多様性」を強みとする経営一多様性からの新しい発想や価値の創造一は、単に従業員の多様化を進めるだけで自動的に実現されるものではありません。せっかくの資産である多様性を放置せず、大切に育み、多様性尊重から活用へ結実させなければなりません。

現在、ハミダス活動やA・S・A運動など、安心して自由に意見が言い合える風土(心理的安全の風土)づくりにより、多様性を尊重する段階にあります。ここからさらに発展して、「人財の多様性」を強みとする経営へと結実していくためには、制度整備を含む各種人事施策に加え、全社的な経営戦略との連動、管理職のマネジメントの実践が重要になってくるでしょう。

環境への配慮

http://www.nichirei.co.jp/report/2013/env/env_01.html ホーム > CSRレポート2013 > 環境のために

環境方針 生物多様性方針

ニチレイグループでは、グループ環境方針、グループ生物多様性方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

[Web](#) 環境方針全文 生物多様性方針全文

中期目標と実績

* 中期目標(2010年度-2012年度)

地球温暖化防止および廃棄物削減についてはグループ全体の目標値を定め取り組んできました。

● 地球温暖化防止

グループ(国内)のエネルギー起源CO₂排出量
2012年度 2009年度実績比3%削減

- * 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー
- * 購入電力由来のCO₂算出係数は2009年度固定

● 持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される
廃棄物リサイクル率99%の達成・維持

* 2012年度実績

重点課題1 地球温暖化防止

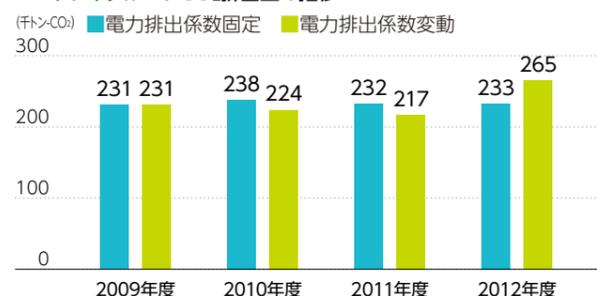
気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして工場や物流センターなどの事業所から直接排出されるCO₂の削減に取り組むとともに、事業内容とのかかわりを考えながら各事業会社が重点課題を設定し、サプライチェーン全体でのCO₂削減に取り組んでいます。

2012年度のグループCO₂排出量は、各事業所における省エネ、節電等の削減活動によるCO₂削減を、事業所の新設、生産量の増加などによるCO₂増加が上回ったことにより、2009年度比で0.6%の増加となり、目標である3%削減を達成することはできませんでした。しかしながら、2009年

度~2012年度まで継続稼働している事業所(既存事業所)では、3%以上の削減となっており、各事業所における削減活動は成果を上げています。一方、原子力発電所の停止により、電力使用1kWhあたりのCO₂排出量(電力排出係数)が増加したため、地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出したCO₂排出量は大幅に増加しました。

また、従業員の家庭における節電活動を促進するキャンペーンも2011年度に引き続き実施し、2年間合わせて約152kWhの電力削減を達成できました。

■ ニチレイグループCO₂排出量の推移



- ※1 電力排出係数固定: CO₂排出量算定のための算出係数を2009年度に固定した場合
- ※2 電力排出係数変動: 上記を地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき変動させた場合

※一部事業会社間の重複計上データがあり、過去年度データの修正を行っている。

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

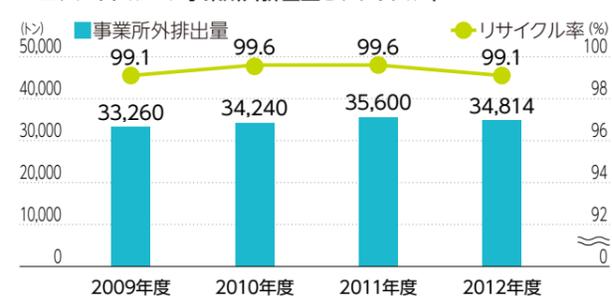
- Web** ▶環境方針 ▶生物多様性方針 ▶2020年度に向けた目標と重点課題 ▶環境マネジメント体制 ▶ISO14001などの認証取得
▶環境監査 ▶環境会計 ▶環境社内教育:CSRレポート説明会、環境展示会、環境講演会、環境e-ラーニングの実施、他 ▶環境事故、法令違反の状況

重点課題2 持続可能な資源循環の推進

地球上の資源を継続的に利用していくために、サプライチェーン全体での廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”とかかわる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の維持・向上を継続推進し、2012年度の事業所外排出量は34,814トンとなり、リサイクル率は99.1%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

■ ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



重点課題3 自然との共生

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによって成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種などによって維持されています。あらためてその重要性を再認識し、さらに取り組みを強化していくため、2010年度にグループ生物多様性方針を策定しました。今後も、原材料調達における周辺環境や生態系への配慮、食材を余すことなく使い切る、所有地周辺を中心とする自然保護活動、自然の大切さを伝えることなどに取り組んでいきます。

* 今後の目標

東日本大震災後のエネルギー政策の見直しにより、原発の稼働が不透明になり、火力発電が増えたため電力使用量を削減してもCO₂排出量が減少するとは限らない状況となっています。これを踏まえ、温暖化防止に関する次期中期目標策定に当たり、見直しを実施しました。電力使用量とCO₂排

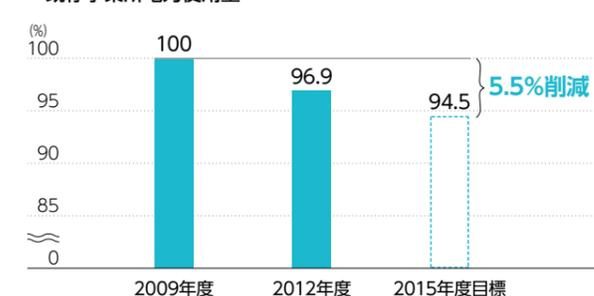
出量のトレンドが相反するため、電力排出係数を固定したCO₂排出量削減目標から電力使用量そのものの削減目標に変更しました。加えて、燃料由来のCO₂排出量とは、これまでの活動実績や使用状況が異なることから、それぞれに目標を設定しました。また、対象は比較可能な事業所ベースとし、新設事業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、個別状況に合わせた目標を設定し効率化に取り組み、排出量の抑制を図ります。あわせて、サプライチェーン全体での排出削減に取り組む、社会全体での排出抑制に貢献していきます。食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率については99%以上の維持に継続して取り組んでいきます。

● 地球温暖化防止の2015年度目標(2013年度-2015年度)

電力使用量 : 2009年度比 5.5%削減
燃料由来CO₂ : 2009年度比 7.5%削減

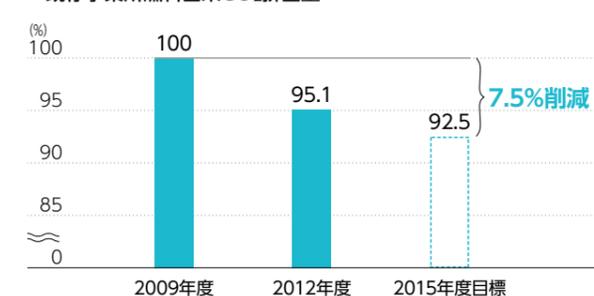
- * 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー
- * 比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新設等による増減は含めない)

■ 既存事業所電力使用量



※2009年度を基準年(100%)としている。
※新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度:445GWh、2012年度:449GWh

■ 既存事業所燃料由来CO₂排出量



※2009年度を基準年(100%)としている。
※新設事業所を含む総排出量は、2009年度:40,540トン、2012年度:40,510トン

食品工場におけるCO₂削減

ニチレイフーズの食品工場(関係会社含む)では、安全・安心な商品の生産を行うために、加熱や冷凍、保管の過程での徹底した温度管理や設備の充実を図るとともに、さまざまな環境課題にも取り組んできました。CO₂排出量の削減については、日々の省エネ活動や新しい技術、高効率な設備の導入など継続的に取り組んでいます。

* 液体燃料(重油・灯油)から都市ガスへの燃料転換

長崎工場と船橋工場では、ボイラー燃料として使用していた重油・灯油の燃料転換を、長崎工場は2012年8月、船橋工場は2013年1月に実施しました。この2工場の取り組みにより2100トンのCO₂を削減することができます。

● 長崎工場の燃料転換

長崎工場では、ボイラーで発生させた蒸気を各生産ラインへ供給し、プイヨンの濃縮、春巻やかき揚げの揚げ油の加熱に利用しています。

2012年度はボイラー燃料を重油から都市ガスに転換するとともに、新たに導入した高効率ボイラー(運転台数および各ボイラーの燃焼を自動的に制御する)に切り替えたことにより工場の稼働に見合った無駄の少ない運転が可能になりました。この燃料転換と効率運転の取り組みによりCO₂排出量は年間833トン(長崎工場総排出量の13%)削減されます。また排ガス中のNOx^{*1}は4.2トン削減、SOx^{*2}は36.4トン削減されます。

当初はタンクローリーによる都市ガス供給を想定し、必要な設備を工場敷地内へ設置するための条件をクリアすることが難しく、都市ガス化を断念していました。

しかしながら、ガス会社と何度も調整を重ね、遠方から敷地内へのガス配管供給が可能となり、やっと計画を実現することができました。

稼働後は、ボイラーの燃焼データ分析結果をもとに、より工場の稼働に適したボイラー運転パターンを設定し、さらに省エネ効果アップにつなげています。

※1 NOx:一酸化窒素(NO)・二酸化窒素(NO₂)など窒素酸化物の総称。自動車の排ガスや工場設備などから発生し、大気汚染の原因となる。

※2 SOx:一酸化硫黄(SO)・二酸化硫黄(SO₂)など硫黄酸化物の総称。大気汚染の原因となる。





(株)ニチレイフーズ白石工場
技術グループリーダー
櫻井 哲也
(2013年4月に長崎工場より転勤)

これまで、冷凍冷蔵電力削減や蒸気ドレン回収に着目し、省エネの効果刈り取りを進めてきました。今回、燃料の種類を変えるという新たな視点を持たせたことで、敷地内へのLNG配管供給が可能になり、ボイラー設備で発生するCO₂を大幅に削減することができました。これからも引き続き、さらなるCO₂排出量・エネルギー使用量削減に挑戦していきたいと思っています。

* 再利用する

● 排熱の利用

生産ラインで使用される冷却水製造設備(チラーユニット)の運転時には大量の排熱が発生しますが、これまでは何も利用されずに大気に放出されていました。

船橋工場ではチラーユニット入替えにあたり、その排熱を有効利用するためにヒートポンプを導入しました。

ヒートポンプで取り出した排熱は、洗浄時に使用する温水の予熱に利用されるため、温水製造時に必要な燃料使用量が削減され、CO₂排出量を年間100トン減らすことができました。

この取り組みは、一般社団法人日本電気協会関東支部の主催する平成24年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰のエネルギー管理優良事業者等最優秀賞を受賞しました。



船橋工場のヒートポンプ



表彰状

Web

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

- ▶ 食品工場におけるCO₂削減:省エネ設備の導入、LED照明の導入、廃食用油の再利用、地中熱の利用、太陽光の利用、緑化の取り組み
- ▶ グリーン電力によるオフセット(NXフォーラム、こだわりセミナー) ▶ オフィスの取り組み ▶ 技術開発センターにおけるCO₂削減
- ▶ エコロジー委員会活動報告会の開催

物流センターにおけるCO₂削減

* 物流センターにおける省エネ対応

ニチレイロジグループでは、冷凍設備の省エネ運転や省エネ効果の高い設備への投資を進めています。

グループ独自の電力使用量削減目標を掲げ、冷凍設備をはじめとした設備の点検、運転制御見直しを行っています。また、省エネ効果のシミュレーションを行い効果的な投資を行うことで、運転時間や消費電力量を削減し、省エネを推進しています。



四国経済産業局より
平成24年度エネルギー管理功績者として
表彰されました。





(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング
関西エンジニアリング事業所 四国ブロック
塩田 耕二

昭和51年に入社以来36年間、(株)ニチレイ・ロジスティクス四国の徳島地区各事業所において、冷凍設備の適切な予防保全を行い、安定的で効率的な運転をしてきました。今後も、冷凍設備の運用に関する技術指導・提言を行い、エネルギーの使用合理化の推進に貢献していきたいと思っています。

マテリアルバランス

INPUT

原材料 144千トン

原料	130千トン
包装資材	13千トン

エネルギー 5,041千GJ

購入電力	449,080千kWh	LPG	3,012トン
重油	4,846kℓ	ガソリン(社有車)	578kℓ
灯油	1,443kℓ	軽油(社有車)	936kℓ
都市ガス	4,576千m ³	太陽光発電	248千kWh

水 4,114千m³

上水	1,374千m ³
工業用水	633千m ³
地下水(井水)	2,106千m ³

OUTPUT

廃棄物

事業所外排出量	34.8千トン
リサイクル量	34.5千トン
最終処分廃棄物量 ^{*1}	0.3千トン

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

大気系

CO ₂ ^{*2}	264,609トン-CO ₂
SOx ^{*3}	15トン

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出
※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

水系

排水	2,288千m ³	排水負荷量	
下水道	1,450千m ³	BOD ^{*4}	43トン
公共水域(河川等)	838千m ³	COD ^{*4}	11トン

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

※ 対象事業所はWebに掲載しています。

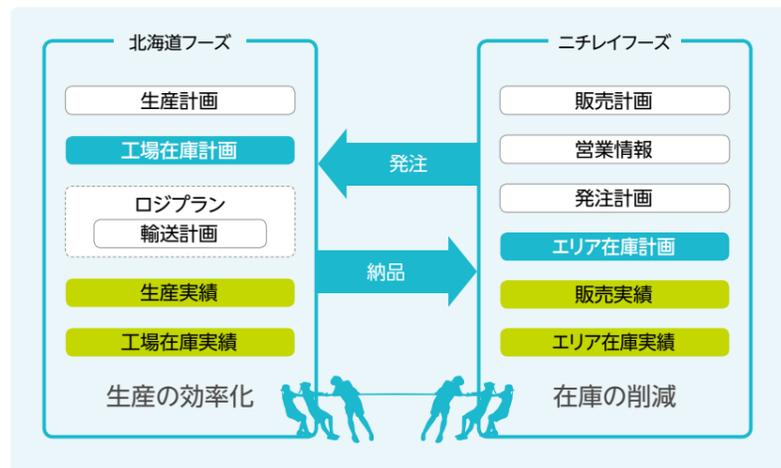
※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

企業間連携によるエネルギー使用量効率化の取り組み

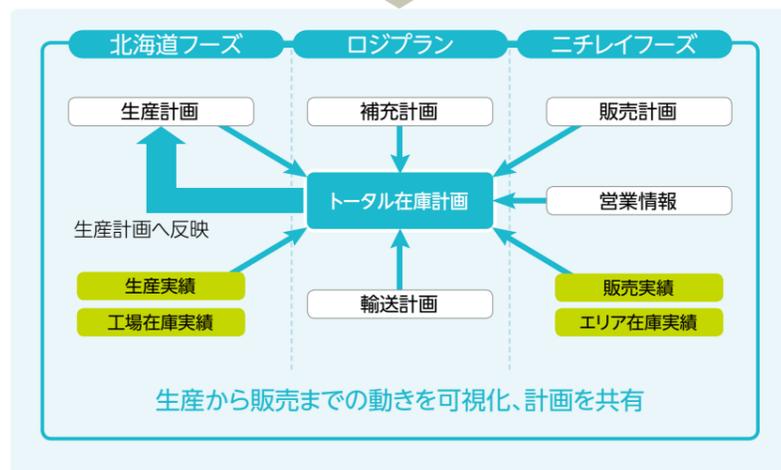
(株)ロジスティクス・プランナーは物流・生産・在庫に関するサプライチェーンを、全体最適な視点で効率化することで、商品保管時の電力使用量の削減や、輸送、生産における燃料およびCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

ニチレイフーズと生産委託先の一つである(株)北海道フーズ様は、情報共有も部分的で、品切れを防ぐために互いが安全在庫を確保していました。また販売に連動した生産や輸送の繁閑の差は、両社のサプライチェーン全体に負荷を与えていました。

3社連携によるトータルコスト削減と物流品質向上の取り組み (取り組み前)



(取り組み後)



2009年よりロジスティクス・プランナーは北海道フーズ様の物流業務を包括受託してさまざまな改善を進めていましたが、物流の繁閑の差は、当初からの継続的な課題になっていました。検討の結果、物流の平準化を実現するためには、3社が協力して、営業情報、販売計画、補充・在庫計画、生産計画、輸送計画に至るまでを連動管理する必要があるという結論に至り、2011年からはニチレイフーズを加えた3社共同による改善プロジェクトがスタートし、2012年10月より本格運営に移行し、現在も改善活動が継続されています。

● 取り組み内容

- ① 3社に関連する必要情報をグループウェアを利用して「見える化」し、日々の情報共有を図ることで生産・販売・在庫・輸送計画を連動させて総合的に管理する体制に変更した。
- ② ニチレイフーズの物流センター在庫の削減を優先する補充計画から、一元管理のもと輸送・生産効率も考慮した補充計画に変更した。

● 成果

- ・ トータル在庫の削減 (▲11.7%)
- ・ 物流の平準化
- ・ 積載率の向上
- ・ 輸送(補充)の多頻度、小ロット化解消
- ・ 冷蔵倉庫、食品工場における電力使用量の削減
- ・ 生産効率の向上
- ・ 事務作業の軽減 等

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

- Web
- ▶ 物流におけるCO₂削減: 物流におけるCO₂削減(商品輸送におけるCO₂排出量)、通過式燃料改質装置の装着によるコスト削減および環境への配慮、ロジネット協力会運送会社の取り組み、グリーン経営認証の取得
 - ▶ ごみの削減・リサイクル: 工程残さを利用して作る飼料、マイはしエコ運動、社会全体の廃棄物の削減
 - ▶ 化学物質管理: PRTR対象物質の管理、PCBの管理、フロンの使用・管理、アスベストへの対応、土壌汚染への対応 ▶ 水域への排出抑制 ▶ 大気への排出抑制
 - ▶ 自然との共生: 自然や地域と共生した持続可能な調達、循環型農畜産業、裏磐梯の社有地における活動、米衣(米100%フライ用衣材の開発)

商品におけるCO₂削減

* 牛のメタンガス排出抑制

牛、羊などの反芻動物は、エサを分解・消化する際、胃の中でCO₂の21倍もの温室効果があるメタンガスを発生させ、体外に排出することが知られています。地球温暖化防止が世界的な課題となる中、ニチレイフレッシュは、牛が排出するメタンガスの抑制に取り組んでいます。

消化の過程でルーメン(1番目の胃)内の微生物の働きにより生成される水素は、メタン細菌によりメタンガスを生成しゲップとして体外に排出されます。牛にアマニ油脂肪酸カルシウム*1を給与することで、ルーメン内の水素は、アマニ油脂肪酸カルシウム中の不飽和脂肪酸と結合して飽和脂肪酸となり、その結果メタンガスの発生が抑制される、という研究成果に着目し、国内の農場で動物試験を重ねてきました。

これにより、通常の肥育方法に比べて10%以上の環境負荷低減効果があること(京都大学によるライフサイクルアセスメント手法による)、穀物肥育牛では「オメガバランス」*2が改善されること、増体効果で肥育期間が短くなり飼料コストが抑えられること等が確認され*3、現在全国各地でアマニ油脂肪酸カルシウムを用いた飼育プログラムで生産した牛肉の販売を展開しています。

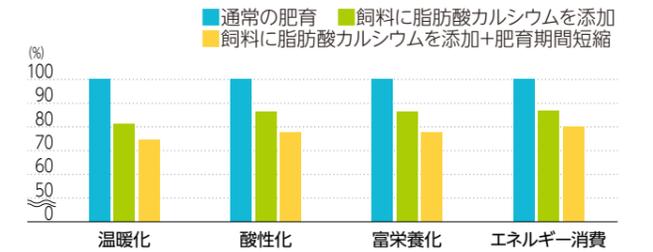
- ※1 アマニ油脂肪酸カルシウム: α-リノレン酸(オメガ3系脂肪酸)を豊富に含むアマニの種子から抽出した油とカルシウムを結合させたもの。
- ※2 オメガバランス: 人の体に必要な必須脂肪酸のなかでも特に重要な「オメガ6系脂肪酸」と「オメガ3系脂肪酸」のバランスのこと。
- ※3 「環境負荷低減型でn6/n3比に優れた低コスト牛肉生産技術の開発」茨城県常陸大宮地域農業研究・普及協議会発行

■ 牛の体内でのメタンガス発生仕組み



アマニ油脂肪酸カルシウムの給与により、メタンガスの発生を抑制します。

■ 地球環境に与えるインパクト評価



※京都大学による評価
※3 掲載図

* 容器包装の軽量化とサイズの見直し

ニチレイフーズでは、強度を確保しながら容器包装の軽量化やサイズの見直しを進めています。2013年春の新商品では「ベーコンペッパーピラフ」、「カリカリ梅とじゃこのピラフ」について軽量化した段ボールを採用しました。「ベーコンペッパーピラフ」ではフィルムの軽量化も図りました。



* ライフサイクル(LC)-CO₂の把握

LC-CO₂とは、人間の活動が地球温暖化にどれぐらい影響を与えるかを、各温室効果ガス排出量をCO₂排出量に換算して表した指標です。

食品の原材料調達から生産、流通、使用、廃棄に至るまでのエネルギー使用量などをCO₂量に換算し、商品のライフサイクルにおいて排出されるCO₂量を把握します。

企業活動における製品製造工程の環境負荷低減の改善指標として、あるいは原材料由来の環境負荷の数値化による製品設計改善指標として、LC-CO₂は活用されて来いています。環境経営指標としての企業活動に伴うCO₂排出量の可視化と情報の公開、いわゆるカーボンディスクロージャーは、企業の社会的責任として必須となりつつあり、この観点からもLC-CO₂の算出は重要性を増しています。

ニチレイグループでも、一部の主力製品において試行的にLC-CO₂の算出に取り組むとともに、簡易算出ツールの作成・改良、品目数の膨大さとサプライチェーンの複雑さから算出が困難となっている原材料調達段階の簡便化算出手法の検討などを行っています。

Web ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

- ▶2012年度の活動と今後の取り組み ▶超高齢社会に向けた食育の展開とさまざまな試み ▶アウトオブキッザニア冷凍食品工場体験inタイ
- ▶(株)フレッシュチキン軽米の食育授業 ▶大学への寄付講座 ▶京論壇への支援(東京大学と北京大学の国際討論) ▶インターンシップ 職場体験学習の受け入れ
- ▶石巻・北上中学校での料理講習会 ▶難病患者への支援 ▶ミャンマーの病院などへ検査薬の提供 ▶地域清掃や整備活動
- ▶東日本大震災 被災文化財などの救援活動 ▶フードバンクへの寄付 ▶TABLE FOR TWOへの参加 ▶エコキャップ運動
- ▶公益信託経団連自然保護基金への協力 ▶使用済み切手の収集 ▶リングプルやアルミ缶の収集による車椅子の寄付 ▶ニチレイふれあい基金

社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。わたしたちは、この考え方に基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組みます。

食育活動

* ニチレイフーズ食育プロジェクト

ふっくらパラッと、なめらか、ジューシー・・・こんなことばをニチレイフーズの商品パッケージで見つけたことはありませんか。ニチレイフーズの食育プロジェクトではこれらの「食べものを表現するさまざまなことば」を「おいしさことば」と名づけました。おいしさで笑顔をつくりたい、という想いのもと、「おいしさことば」をきっかけにした豊かなコミュニケーションの醸成を目指しています。それが、食の品質を見極める力や食を選ぶ力につながると考えています。

オリジナルの「おいしさことば」体験ブックを使い、実際に食べものを見たり、匂いをかいだり、味わったりしながら、大人はもちろん、子どもたちも「おいしさことば」に触れ、体験しコミュニケーションを楽しむワークショップを各地で開催しています。その他、食育コミュニケーションキャラクター「ことはちゃん」を通じて、商品パッケージやニチレイフーズホームページで「おいしさことば」を発信しています。



「おいしさことば」体験ブック
ことはちゃんの部屋Webサイト

* ニチレイフーズ森工場の食育授業

森工場では、子供たちが工場見学に来訪した際に、「おいしさことば」体験ブックを使った食育活動を行っています。さらに、この経験を活かした食育出前授業を実施しました。

森町立鷺ノ木小学校に働きかけ、2月15日に従業員が小学校へ出向き、先生(4名)や父母の皆様(5名)のご協力のもと児童25名に授業を行いました。ニチレイの「コロッケ」と「焼おにぎり」を食べながら、「おいしさことば」体験ブックに沿って45分間のコミュニケーションを実施し、たくさんの子ど



授業の様子

もたちに「おいしさことば」を勉強できて楽しかった!」と言っただけでした。引き続き小学校を中心とした授業を実施して行く予定です。

VOICE

(株)ニチレイフーズ森工場 総務グループ
工場見学・CSR担当
山本 裕子

今回、初めての出前授業をしました。緊張して臨みましたが、子供達は質問に対して元気に挙手し、楽しい雰囲気で行うことができました。これからも、出前授業を通じて地域社会との共生に努めていきたいと思ひます。

物流に関する教育

* 小中学生 社会科見学の受け入れ

ニチレイロジグループでは、周辺地域の小中学生を中心とした社会科見学を積極的に受け入れています。

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道小樽物流センターでは、地域貢献活動の一環として、地元中学校の社会科見学を継続的に受け入れています。2012年度は札幌市立稲穂中学校の39名と札幌市立厚別北中学校の26名が見学しました。冷蔵倉庫内では、常温時との違いを体感してもらうため、シャボン玉や濡れタオルを使った実験をしました。

「ニチレイ」と言えば食品工場の印象が強い生徒が多いなか、「保管する・運ぶ」というニチレイロジグループの仕事や、低温物流の社会的役割を中心に説明し、理解を深めてもらいました。

(株)ロジスティクス・ネットワーク入間物流センターでは、2012年11月に入間市立狭山小学校3年生82名の生徒を受け入れました。

見学会では、入間物流センターの事業紹介を行い、冷蔵倉庫内では凍らせたバナナで釘を打ったり、-25℃で濡れたタオルを回すとどうなるかなどの体験学習を行いました。生徒たちは今まで経験したことのない寒さに驚きながらも喜んでいました。

また屋上見学では、自分たちの通う学校や家が見下ろせる冷蔵倉庫の大きさに驚いていました。見学を終えた生徒からはお礼の手紙をいただき「寒い中でのお仕事は大変ですが、頑張ってください。」とのエールをもらいました。



冷蔵倉庫内の体験学習の様子(入間物流センター)

環境保護活動

* 植林活動への取り組み

ニチレイグループでは、地域の植林活動によるCO2削減や地域自然保護活動に取り組んでいます。従業員自らの体験や、NPO法人などの外部機関とのコミュニケーションを通じて、気づきを得ることが重要と考えています。

2012年度の主な活動	場所	主催	内容	
東京グリーンシップ・アクション	東京都	東京都	雑木林の下草刈り	ニチレイ
「うるおいの森」活動	東京都	NPO法人地域パートナーシップ支援センター	植林	ニチレイ
蔵王のブナと水を守る会 植林祭	宮城県	NPO法人蔵王のブナと水を守る会	植林	ニチレイフーズ白石工場
お魚殖やす植樹運動	北海道	北海道漁業協同組合連合会 雄武漁業協同組合	植林	ニチレイフレッシュ
みんなで作ろう! 千年希望の丘!! ~岩沼市空港南公園植樹祭	宮城県	岩沼市	植林	ニチレイ・ロジスティクス東北 仙台南物流センター

コーポレートガバナンスの確立

* 業務執行・経営監視

監査役設置会社制度を採用するニチレイでは、経営の透明性向上と経営監督機能の強化を図るため、取締役の任期を1年とし、社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締役会を開催しています。

社外取締役は、経営陣からは独立した立場で、経営に関する各種案件を審議するとともに、グループ戦略や業務執行に関するモニタリングを行っています。

監査役は財務・会計に知見を有する人材を選任するとともに、経営陣から独立した立場にある社外監査役を置くほか、両代表取締役が、取締役会とは別に監査役会に対しても定期報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たす仕組みを構築しています。

また、各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモニタリング機能を強化するため、持株会社であるニチレイの組織に事業経営支援部を設置し、各社の非常勤監査役を兼務するとともに、経営進捗状況等を毎月持株会社へ報告するほか、各社に対し経営のサポートも行っています。

さらにコーポレートガバナンスを有効に機能させるため、取締役会の諮問機関として7つの委員会を置くとともに、代表

取締役社長の業務執行に資することを目的として「経営会議」「審査委員会」「知的財産管理委員会」を設置しています。

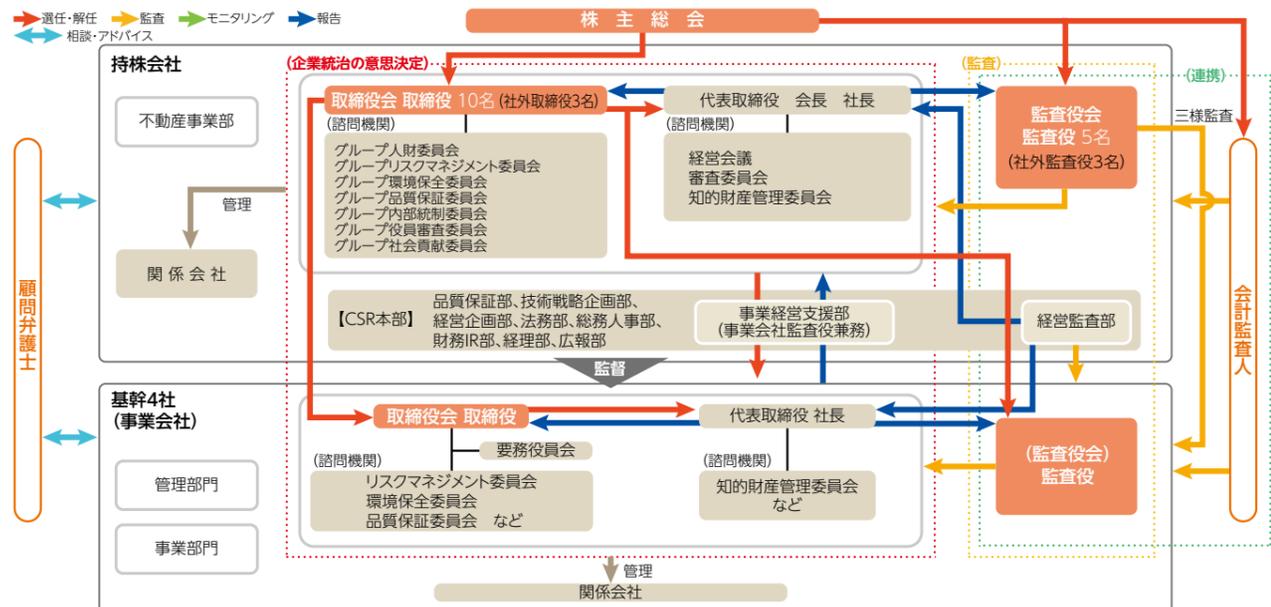
* 内部統制システム

ニチレイグループは、企業経営理念、ブランドステートメント、CSR基本方針の実現のため、会社法にもとづき、「内部統制システムの基本方針」を策定したうえで、「業務の有効性と効率性の向上」、「財務報告の信頼性の確保」、「事業活動に関わる法令等の遵守」、「資産の保全」の観点からシステムを整備・運用しています。特に財務報告の信頼性に関する内部統制システムについては、2008年度より金融商品取引法にもとづいて自己評価し、「内部統制報告書」として提出することが義務付けられています。

ニチレイグループでは、連結ベースで財務報告全体に重要な影響をおよぼす対象会社および業務プロセスを選定し、リスク低減化のための統制行為を行っています。

これらにもとづき、独立した部門が全社的な内部統制および業務プロセスに関わる内部統制に対する有効性評価を行い、財務報告の信頼性を確保しています。

■ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスの徹底

* 行動規範

ニチレイグループでは、あらゆる企業行動の根幹として、1999年4月に行動規範を制定しました。変化する事業環境に即した行動基準とすべく、毎年内容を見直すとともに、グループ教育訓練規程にもとづき各社掲示板に「ケーススタディ」を掲示したり、e-ラーニングを実施するなどの教育・啓発を行い、コンプライアンス経営を徹底しています。2012年度は、全国15ヶ所に1,149名を集めて延べ42回の説明会を開催し、行動規範の基本の浸透を図りました。

ニチレイグループの行動規範目次(2012年4月改訂)

- 法令および社内規程・ルールの遵守
- 会社財産の有効活用と公私混同の禁止
- 社会貢献に関する活動
- 環境保全に関する活動
- 事業活動に関する基本的な姿勢
- 個人の立場と従業員の立場の利害調整
- 社内における交際
- 情報セキュリティ
- 国家公務員など行政団体への対応について
- 内部通報・相談制度について

* グループ経営監査

グループ各社のリスクマネジメント体制の構築と、健全で持続的な成長の確保に資することを目的に、グループ内部監査規程に則した監査を実施しています。

2012年度は、コンプライアンスグループが171カ所、設備監査グループが112カ所の事業所を監査。グループ全体のコンプライアンス意識向上を目的に、具体的な項目を明記した「経営監査チェックシート」を各社・各事業所に配付し、自主チェックを行うとともに、内部統制システムの有効性を評価しました。

* 内部通報・相談制度

法令や社内規程に違反する行為、倫理上問題のある行為などに関する従業員からの通報・相談に応じるため、2003年10月から内部通報・相談制度(ニチレイホットライン)を導入しています。さらなる周知徹底のため、ポスターや解説シートをグループ内の全事業所に掲示するなど、従業員のコンプライアンス意識を高めることで、問題発生のシグナルを見逃さず、リスクを抑止する仕組みを構築しています。

2012年度は、ニチレイグループ全体で3件の通報を受けま

した。ここ3か年の傾向としては、「コミュニケーション(職場環境)」「ハラスメント」に関する通報が大半を占めていますが、受け付けたすべての通報について、調査、事実確認の上、適宜対応しています。

■ 通報件数		■ 内容	
2010年度	7件	コミュニケーション	7件
2011年度	8件	ハラスメント	7件
2012年度	3件	コンプライアンス	3件
		人事、処遇	1件

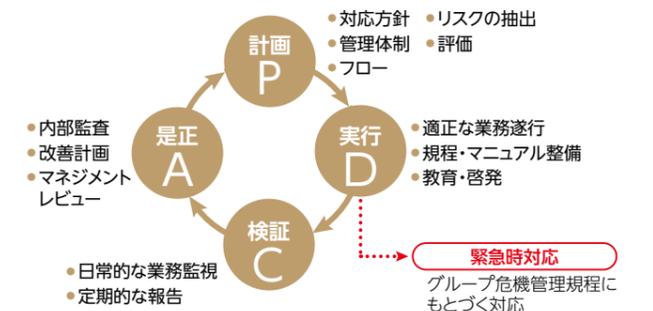
* 情報セキュリティ 個人情報保護

ニチレイグループではグループリスクマネジメント委員会のもと、グループ会社および従業員が遵守すべき情報セキュリティ対策に関する基本方針を定めています。社会の要請に応える情報管理を実現しながら、グループ各社における業務の有効性・効率性を両立する体制を確立しています。具体的には、(1)人的・組織的セキュリティ、(2)物理的セキュリティ、(3)技術的セキュリティの観点から、マネジメントサイクルとしてのPDCAを徹底しています。また、個人情報保護の責任体制を明確にするため、各事業会社でCPO(チーフプライバシーオフィサー)および個人情報取扱責任者を任命しています。

* リスクマネジメント

ニチレイグループの企業価値最大化を目的に、ニチレイマネジメントシステムの一環として、リスクマネジメント体制の整備に取り組んでいます。企業活動全般に関係するさまざまなリスクに対して、その影響の未然防止と最小化を図るため、リスク対応方針を策定し、リスクマネジメントサイクルの構築を進めるとともに、迅速な情報の共有や社員への教育を通じて、リスクマネジメント力の向上を目指しています。

■ ニチレイグループ・リスクマネジメントサイクル



Web ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています
 ▶医療従事者向けに情報サイトの提供 ▶投資家向けIR活動の充実 ▶「ニチレイフーズNXフォーラム」の開催 ▶「ニチレイフレッシュこだわりセミナー」の開催
 ▶ロジネット協会全国会定時総会の開催

お客様相談センターの活動

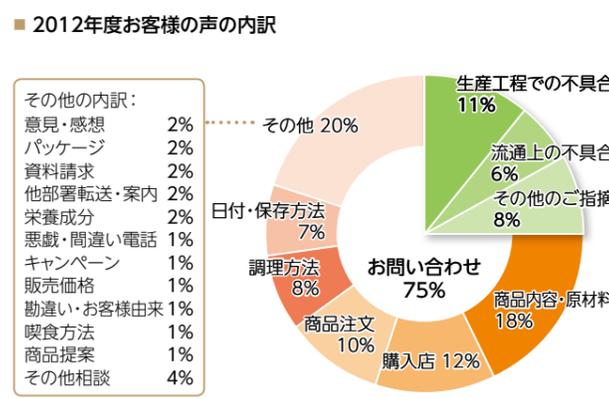
* 品質向上へ向けての取り組み

ニチレイフーズお客様相談センターでは、お客様からいただくご意見やご指摘に迅速・適切に対応することで、お客様満足と企業価値の向上を目指しています。2012年度は『品質の向上』を標語に掲げ、以下のような活動に取り組みました。

- お客様対応力の強化(対応品質の向上を目指す)
- ご指摘情報の社内共有化と提案活動(製品品質の向上を目指す)
- リスクマネジメントの実践(経営品質の向上を目指す)
- CSの実践と企業風土の醸成(企業品質の向上を目指す)

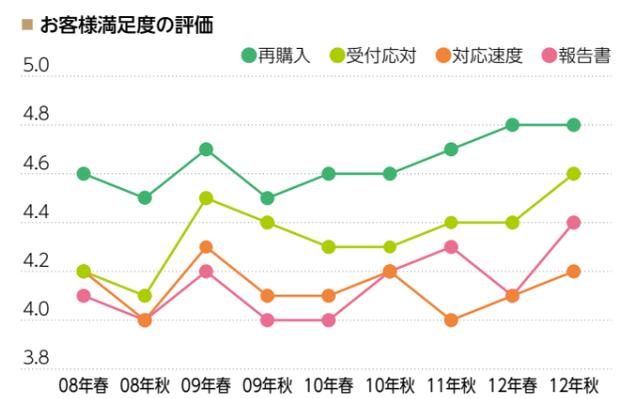
* CSアンケート調査

お客様相談センターでは、お客様対応の品質向上を目指し、お客様満足度(CS)アンケート調査を実施しています。アンケートは商品の不具合等のご指摘をいただいたお客様へ、調査結果の報告書とともにアンケート葉書を同封し、



返信していただく形をとっています。アンケート内容は「電話対応時の印象(受付対応)」「調査報告書の内容(報告書)」「受付から報告までのスピード(対応速度)」「今後のご購入意欲(再購入)」という4項目の5段階評価と、ご意見を自由に書き込めるフリーコメント欄を設けています。

集計結果はお客様相談センターでの対応品質の向上に活用しており、2012年度は特に「調査報告書の内容」と「受付から報告までのスピード」のレベルアップに取り組みました。「内容」については、専門用語を極力使用せず、お客様の年齢に応じて文字サイズを変えたり、ご指摘の背景にある思いを受け止めることを意識するなど、マニュアル的ではないお客様一人ひとりに向けた報告書の作成を心掛けました。また「スピード」については、調査報告書を急いで発行するというより「調査にかかる日数をあらかじめお客様にお伝えし共有させていただくこと」を試みたところ、一定の評価をいただくことができたようです。今後もCSアンケート調査を継続することでお客様相談センターの業務改善に取り組んでいきます。



第三者意見

ニチレイグループ「CSRレポート2013」を読んで



神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦

CSRへの企業姿勢を明確にした報告書

ニチレイグループのCSRレポートは企業としての姿勢が明確に打ち出されているところに大きな特徴があります。それは、トップメッセージを他社と比較しても、具体的かつ詳細に記載されているところに端的に現れています。特に、今期から新中期経営計画が始まりますので、期待が高まります。

グローバルサプライチェーンへの積極的な展開

今年度の報告書の大きな特徴は、グローバルサプライチェーンに関して、多くのページを割いて説明していることです。中国の食品の安全性については、日本人の多くが心配していることなので、このような詳細な説明は時宜を得た重要なものです。また、環境も社会責任もサプライチェーン単位で追求すべきという国際的な潮流にも合致しています。個別の取り組みの説明が中心ですが、そこにはグローバルサプライチェーンを展開する管理システムにまで踏み込んで説明しているため、安心感が高まると言えます。

今後の課題としては、「環境目標と実績」の重点課題の2として、「持続可能な資源循環の推進」をあげて、このなかでサプライチェーン全体での廃棄物の削減に取り組んでいると説明されていますので、中国でのグローバルサプライチェーンの活動なども、この環境目標と連携させて、全社的に体系的に進めていくことであろうと思います。この領域で、日本の先進モデルを構築していただきたいと強く期待しています。

ダイバーシティ・マネジメントの推進とCS・ESの向上

もう一つの特徴は、ダイバーシティ・マネジメントの推進です。これまでの活動を歴史的に振り返り、取り組み課題を明確にしていることは高く評価できます。また、CS(顧客満足度)やES(従業員満足度)についても、積極的に取り組んでおり、各グループ会社の活動についても詳細に開示されています。これらの活動は欧米でも主要なCSR活動と認められているので、今後はCSRのひとつの目標としてKPI(Key Performance Indicator)化されることも検討されてよいと考えます。さらにこの問題は、顧客や従業員の生の声は何より重要なので、是非ステークホルダーとのコミュニケーションを充実させてほしいと思います。外部有識者も交えてダイアログを開催するだけで、社会に対してオープンな会社というイメージを訴えることができますし、オープンな討議を通じて会社が学ぶべきことも多いので、いろいろな工夫をされるのが大切と考えます。

ニチレイグループのCSR活動の今後一層の発展を心から期待しています。



(株)ニチレイ
取締役執行役員
CSR本部副本部長
大内山 俊樹

第三者意見を受けて

國部様には2010年度のCSRレポートより率直なご意見をいただいております。まずは厚く御礼申し上げます。今年度の報告書のテーマの一つである、「急激なグローバル化が進む中で、安全な食品をお客様にお届けするために、当社グループがサプライチェーンの中で取り組んでいる活動を知っていただく」という点について、「安心感が高まる」という評価をいただき、心強く思います。ご指摘いただきました課題も踏まえサプライチェーン全体を通じてより高い価値を創造し、報告できるよう努力してまいります。

また、働きがいの向上に関わるパフォーマンスデータについて、開示項目を増やしWebサイトに掲載いたしました。これをきっかけに、KPI化も含め、さらなる改善を進めていきたいと考えています。今後も幅広いステークホルダーの皆さまとの対話を重ねながら、CSR活動の推進に取り組んでまいります。